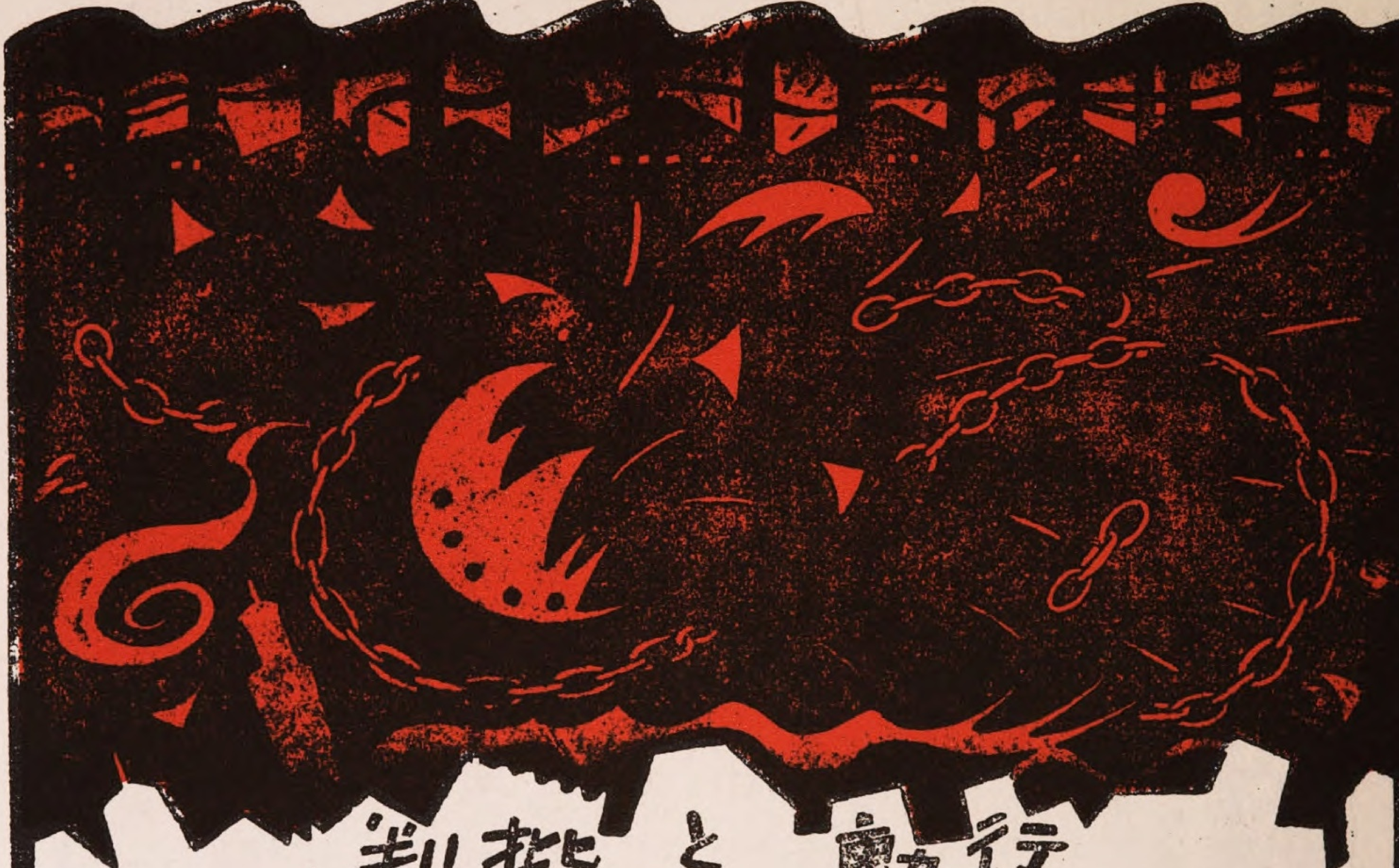
5861
2144
30.18

LA SEMANTO

種蒔く人

大正十一年十二月一日（第三種郵便物認可）
大正十二年一月廿八日（印刷納本）
大正十二年二月一日發行（毎月一日一回發行）



行動と批判

第三年第四巻第十六號

過激法案を呪ふ
ロシアの子供を救へ
水平社運動
赤列車の客
西伯利亞から

BERKELEY
LIBRARY
UNIVERSITY OF
CALIFORNIA

◇二月號◇

種蒔き社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

NJA DEKLARO

Iam antaŭe homoj kreis diojn. Sed homoj nun estas iliń mortigintaj. La destino de l'kreitaĵoj estas facile divenebla.

Nuntempe ne sintrovas dioj. Tamen ĉie aliformigaĵoj de dioj estas plenaj. Dioj devas esti mortigataj. Kiuj ilin mortigas, estas ni; kaj kiuj ilin aprobas, estas la malamikoj. Du kampadejoj kontraŭstaras unu la alian. Dum ĉitiu stato daŭradas, homoj estas malamikoj de homoj. Neniam estas inter ili la vojo de kompromiso; tie nur estas „jes" aŭ „ne," „vero" aŭ „malvero."

Vero estas absoluta. Ni do diras pri la Vero, kiun aliuloj ne diras. Homoj estas lupoj kontraŭ homoj. Landoj aŭ rasoj estas en nenia rilato por ili. Sub la lumo de Vero okazas unuiĝo kaj apartiĝo.

[illegible] [illegible] [illegible] —kune, kun la kamaradoj en la tuta mondo!

La Semanto. (*TANEMAKIŜA*).

種蒔く人二月號目次

(題言)
水平社運動の經過……青十字凡人
水平社とは?……
或る夜のこと……平野小劍
水平社訪問記……佐野學
蒸し返しの過激法案……
飢えたるロシアの兒童を救へ……

赤列車

黒　煙……中西伊之助
電車に乘つた夢の中で思つたこと……細井和喜藏
虚無主義者と生の執着……一氏義良
唯物論と神秘主義……武藤直治
西伯利亞の一隅より……ヨシフ•ウラジミルロフ
無產階級運動のABC(小牧)——啓明會運動(日野樹)——來るべき白兵戰の前に(淳三)——『脫船以後』其他(亮)——名刀の斬味(洋文)——有島武郎氏の『酒狂』(賢三)——階級鬪爭と藝術運動(李吉)——プロレタリア作家の自家撞着(光造)
□世界欄——聾人欄……
□表紙及びカット……柳瀨正夢

人間權の奪還

原始の昔、荒涼たる原野のなかの洞穴を後にして、暗夜に物凄く映る火山の焰を望みながら、人々は鹿の肉を火にあぶつては喰つて居た。お互いが捕つた鹿をお互ひが分ち食つて居た。そこには鹿の肉に對する爭ひはなかつた。まして肉を喰ふことに對する刑罰の如きは思ひもよらなかつた。この生活の糧を奪ふことは死を意味して居た。

しかし『神』が襲ひ來り『佛』が運び込まれてからは世の中はそう行かなかつた。『神』は白刄をもつて脅迫しつゝ肉を奪ひ去つた。『佛』は肉の穢れたものであることを告げて、肉を捨てさせた。多くの人は肉を捧げ、肉を捨てた。しかし肉は人々に必要であつた。牛も、馬も、豕も、鹿も、白刄とお告げとに從はふとしなかつた人々は、遂にこの牛を飼ひ、馬を屠ることを强いられた。

この時以來、社會のどん底に、畜生は四つ足よと罵られながら、獸を屠り、その皮を剝ぎ、其の肉を喰ふ一群の人々が呻いて居た。悲しくもその人々に人間の權利はなかつた。生々しい人間の皮を剝ぎ取られ、暖い人間の心臟は引裂かれて居た。

これがエタであつた。吾々の祖先の運命であつた。

しかし、畜生を呼ばれた吾々も人間である。四つ足と罵られた吾々も二つの足で步くのだ。トウナイと蔑られた吾々にも、十本の指が揃つて居るのだ。しかも見よ、吾等の體を流るゝ赤き赤き血潮を、人間の血を。

吾等を縛る冷い鐵鎖は、今も重苦しく吾等に迫る。强權による白刄の閃くところ、悽慘なる流衖を生む。キシネフの街に殺された猶太の民の血は、吾等の腦裡呪ふべき足跡を殘して居るではないか。

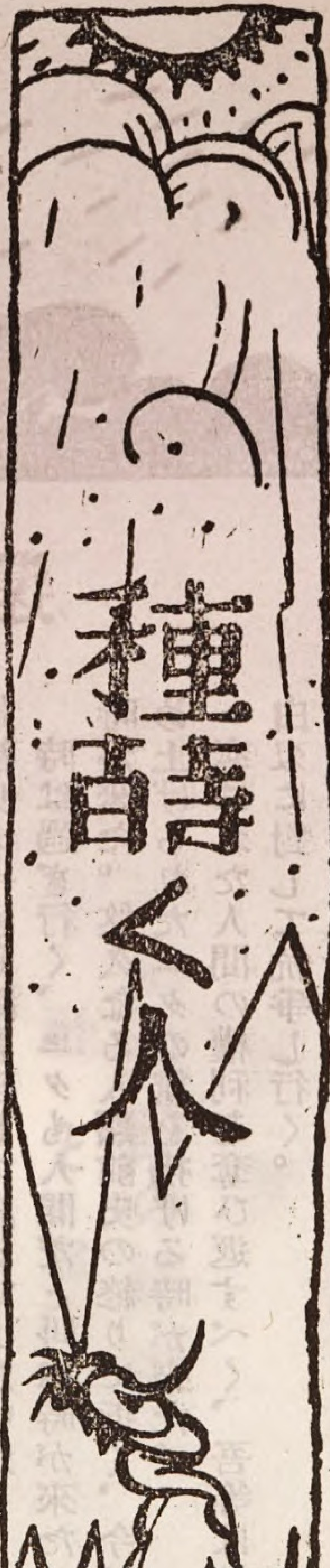
時は過ぎ行く、エタも人間だと叫ぶ時が來た。奪はれた人間權を奪還すべき時が來た。悠久なる人類前史の終りに近く、今、一千年來の屈辱の血淚もて染め上げられたエタの旗を揭げる時が來た。

奪はれた人間の權利を奪ひ返すべく、吾等は進み行く。赤き人間の血潮もて白刄に對して抗爭し行く。

エタも人間だ。三百萬の兄弟よ團結せよ。

東167818

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



水平社運動の經過

吾々の運動は、吾々自らの力を以て解放を期し、人間の權利を奪還せんとするのである。個々の運動は効果を齎すことが遲い。目的の貫徹の爲めに、全國に散在する吾が部落民の大同團結が圖られ、その集團的運動が起るに至つた。京都を中心として、奈良、大阪、滋賀、東京の各府縣にこの運動は起つた。約半歲はその連絡と同志の糾合に費され、幾多の難鬪を經て、遂に全國水平社創立の運びに至つたのだ。

その日、虐げられ來たりし吾等特殊部落民の爲めに記念すべき、大正十一年の三月三日。京都へ！　京都へ！　と、京都岡崎公會堂を指して、全國の部落民代表者の參集する者四千、創立大會は熱狂せる感激の裡に行はれた。そして悲痛なる涙と歡喜との間に、次の綱領宣言は發表された。

綱領

一、吾々特殊部落民は部落民自身の行動によつて絕對の解放を期す。

一、吾々特殊部落民は絕對に經濟の自由と職業の自由を社會に要求し以て獲得を期す。

一、吾々は人間性の原理に覺醒し人間最高の完成に向つて突進す。

宣言

全國に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

長い間虐げられて來た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎さなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて常に人間を冒瀆されてゐた罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勦はるかの如き運動はかへつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは寧ろ必然である。

兄弟よ。

吾々の祖先は自由、平等の渇仰者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり、男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剝ぐ報酬として生々しき人間の皮を剝ぎとられ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖かい人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は涸れずにあつた。そうだそして吾々はこの血を亨けて人間が神にかはらうとする時代にあうたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返へす時が來たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が來たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が來たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲とによつて、祖先を辱め人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが如何に冷たいか、人間は勦はる事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は心から人世の熱と光を願求禮讃するものである。水平社はかくして生れた。

人の世に熱あれ人間に光あれ。

大正十一年三月三日　　全國水平社

この宣言綱領の讀まれるや、エタ萬歳水平社萬歳の聲は、會堂に鳴り響き、各地代表の演説は火を吐く如き熱辯で、少年も起ち婦人も起つて、水平運動の爲めに萬丈の氣焰を擧げたのであつた。

續いて三月下旬の別府的ケ濱民家燒打事件は、この鬪爭を内面的に深刻化して全國的に波濤のやうに燃え擴がらせた。

四月一日には京都水平社創立大會、同十四日に埼玉に、同二十一に三重に水平社が相次で生れたが、翌五月十日には奈良

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

縣に水平社の創立を見るに及んで、同縣下の七十二部落は悉く水平社に加盟した。其後幾許も經たぬ間に東京にも水平社生れ、和歌山にも水平社生れるといふ破竹の勢を示して、遂に少年水平社、少女水平社の創立をも見るに至つた。これより先き、四月十日全國水平社聯盟は東西兩本願寺に對して募財拒絶の決議を突つけたが、それと同時に、從來は泣き寢入りであつた、部落民に對する侮辱、差別、壓迫に對しては徹底的に糾彈し、かくて團結は益々堅く運動は益々深刻化して行くばかりであつたが、全國革皮業界の覇を握ぎる西濱の大部落を有する大阪にも、水平運動は起らざるを得ぬ果然、八月五日西濱に大阪水平社創立大會が開かれ、水平運動の上に一新機運をつくつたのであつた。十一月十日には愛知縣水平社が生れ、同二十六日には兵庫縣水平社創立大會があつた。そして今や水平社の間には、僧侶の堂班をさへ投げ捨てんとする黑衣同盟の運動さへ起つてゐる。

水平社の奮起に恐れ戰いた政府は、十六萬圓であつた部落改善費を百萬圓に上せんとしてゐる。そしてこの運動の火の手を消し止めやうとしてゐる。然しながら、吾々の生命がけのこの運動は、こんな事で揉み消すことは出來ない。今や水平運動は全國に亙らうとしてゐる。近畿一帶は既に水平社の力强き團結が成立した。關東、東海、中國、九州と宣傳は行きわたり、全國の部落民は烽起せんとしてゐる。吾々の運動はかつて人間の權利を奪はれたものが、これを奪還せんとする運動である。畜生扱ひにされたものが、俺も人間だと云ふ叫びである。

全國水平社はこの爲に起つた！

水平社とは！

青十字凡人

八月號の種蒔、聾人に、靑十字とは？と題し、田治郎氏によつて靑十字が今尙、差別撤廢の運動を繼續してゐるかの

やうに紹介されたものだから、青十字とは一體どんな組織で出來てゐるのかとか、この運動を如何なる方法でやつてゐるのかとか、種々な方面から問合があり、且つ、君が運動に大に共鳴したから、會員にして貰へぬかとか、或は進んで、運動の一員となつて共に人道の爲めに、献身的に盡して見たいと思ふが、さして貰へぬかなど、色々の照會があるので、實は嬉しい事ではあるが、青十字としては現在この運動を表面打ち切つてゐるので、こゝに稀蒔の餘白の一部を拜借して、その事情を述べ新に水平社を紹介し以て回答に代へ、折角共鳴せられた人々の厚意に報ゆることにした。先づ、物の順序として、凡人がこの運動を起した動機を一寸述べたいと思ふ。

明治四十二年彌生の春、四國の片田舍の一小學教員が、師範を卒へて直に母校に奉職することになつたところ、兒童の父兄が、明に「ヱタに、自分等の大切な子供は任せられぬ」といつて、その子達を登校せしめず猛烈な排斥運動を起してゐる、との事が萬朝報によつて報ぜられた。フトその記事が目に止まつた凡人は、その非道極りなき人類の破壞行爲に對しムク／＼と憤激の泉、一時に迸り、心臟の血、同時に逆流した、即ちこれが始まりである。

[illegible]さうする事は、決して自分一人の爲めのみではないぞッ、全國に散在する三百萬の同胞の爲めだッ――然し、悲しい哉、その訓導は、哀れにも――あゝ。

爾來幾星霜、心に反逆の焰、燃えながらも、學生の分際では親の臑嚙りに止り、どうする事も出來なかつた。然るに自力自活の域に入つて玆に約十年！の日月は夢の如くに去つて、大正九年六月十日の夕暗に、蕭然と訪れて來た可憐な三歳の少女の母、Cさんの呪はれた悲しい流離の境遇をば、さめ／＼と泣き聞かされて、無理から壓へつけてゐた憤激は詛の頂天に達した。方に機は到來した。

大正十年二月一日、驀然起つて三百萬の同胞の爲めに戰の烽火をあげ、天下に開放――自覺、反省、促進――の聲を大にした。

この間、[illegible]、妄想に囚はれたる人間共の嘲笑と、亦長き間、壓迫の環境に在つて極度の恐怖を抱ける無自覺なる部落民連の防害とに應戰しつゝ、情熱的運動を繼續する事全國的に滿一ケ年、會々奈良柏原部落

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の青年が京都に於て水平社といふものを組織して、部落民自身によつて自覺集團の運動を開始せんとしてゐるとの快報に接し、天の岩戸は方に開かれたりと、膝を叩いて狂喜快哉を叫んだ。

かくて水平社は、自覺發奮せる青年有志が血涙の苦心によつて、本年三月三日遂に目出度、京都岡崎公會堂に宣戰の布告をなすべく發會式を擧げた。

この日を最後として靑十字は、この運動を中止したのである、それは次の二つの理由に基いたからである。

一、哀願的差別撤廢を訴ふるを止めて自覺せよ。

一、同情的差引撤廢を口にするをやめて反省せよ。

即ちこれである。

眞の開放運動は部落民の自覺を第一とし、而かも部落民自身にのみよつてなさるべきものにして、初めて達成せらるゝものである、との信條からして靑十字のこの運動も、その目的がこゝにあつたのである。然るに水平社といふ力強い、眞の部落民自身の自覺開放運動が完全に起つた以上、尙も靑十字が、この運動を繼續する事は、反つて純眞なる部落民自身の聖く尊き運動を傷け、ほんとうの目的に到達し得ないからである。

如上の故を以て今は全く表面的、運動はやつて居らぬ、だが水平社の運動に對しては乍蔭、日に月に盛大ならむ事を祈つてゐる、全然、無關心となつた譯では斷じてない。

凡人は水平社を最もよく知る一人である、故に左に紹介する事は眞に水平社の紹介である。

水平社の起源、それは決して昨今の事ではない、馬鹿に大本敎のお筆先めいた事を云ふやうであるが、もう古から、ちやんと定まつてゐたと言つてもよい程偶然でないのである、實際、水平社の同人は靑年のみである、その靑年である同人は、揃ひも揃つて大和の國の柏原の出身である、と云ふ事實から靜に想像するならば、そこに何等かの暗示を直感するだらうと信ずる、即ち當然生れ出づべき土地に生れ出で當然叫ぶべき素質を授けられて叫び出でたのである、であるが故に我が大日本帝國が大和の國の柏原から文化向上、遂に今日に及べる如くに、水平社も又同じく大和の國の柏原より生れ出

で日本はおろか、須ては全人類の住む地上の凡に輝き擴がらなければ熄まないのである、と云ふ事を容易に考へさせられ、而もそこに初めて彼等が目的とする水平が見出され、憧憬の「よき日」が造り出される、と云ふ事をも信じさせられる。それまでは、如何なる權力や武器により精神的乃至は物質上の迫害や壓迫を蒙らうとも、斷じて止むべくもないのである。否寧、壓迫せらるれば、せらるゝ程、迫害を受くれば、受くる程、より一層、溌剌たる反抗運動は繼續され増大せらるゝのみである。それは水平社同人が生命として主張しつゝある、エタ主義の眞髓であるところの彼のモツトーを一讀することにより頷かれるであらう。

人間性の原理に覺醒し、人類最高の完成に向つて突進する。

おう人の世に熱あれ、

人間に光あれ！

これが水平社のモツトーであり、エタ主義の眞髓である。エタ主義は即ち人間化主義であり、人間化主義は即ち親鸞主義である。彼等は、この意味からして、今迄も、今も尙、將、永劫へも嚴格なる親鸞主義の遵守者であり、神聖なる憧憬者である。

去る三月三日の大會後、半月餘にして同月二十一日、水平社即ち部落民の決議として「向ふ、二十ケ年間、如何なる理由に據くも、一切の募財を拒絶する」との決議文を東西本願寺に通告したるが如き痛快事は全く强き、その信仰の具體化であり、而も弘誓に背反せる現代の墮落僧、就中、兩本願寺に對する眞面目なる、その信仰の戰である事が證據だてられる。

却說、水平社同人が、今如何に、その主義、その、モツトーを死守して突き進みつゝあるか、而も、それが如何に權力や武器に對する對抗力を有するか？　それは彼等が溌剌たる狂熱的自覺運動の現在によつて明である。

見よ、彼の水平社の宣傳演說會に於に熱烈火の如き、辛辣骨を刺す樣な、それこそ血を吐くといはふか、猛獸の荒狂ふといはふか、眞に譬やうのないまでの眞劍さで、人間的叫びを擧ぐる時、如何なる無智の警官も一言半句の干渉もなし得

ず、囚れたる妄想家は怖と戰とに滿されて慄然として密にコソ〳〵と會場より逃げ歸り、無自覺なる部落民も、よく一回の演說會によつて直に熱化し狂喜して即刻人間に還元せらるゝなど、實に明に、その叫び、その運動が、人間としての叫びであり、人間としての運動であるかが、窺ひ得られて餘あるのである。同人達は明に、こういつてゐる、我々は、過去一千年來、不合理極まる賤視觀念に惑されたる多數者によつて、我々少數の同胞は、あたら人間を奪れてゐたのだ、我々は今日漸く、その奪れたる人間を奪ひ還さうとするのである、而して必ず取り返さなければ熄ないのである、[redacted]。全く、少數であつた同胞が、クダラナイ信仰の觀念から妄想に囚れた多數者に過られ賤まれ虐げられ、それこそ眞に捕へられた龜のやうに手も足も出ぬまでに、慘虐を蒙り反抗する力も勇氣も壓し潰され悲憤と血涙とで暮さなければならなかつた祖先の時代は兎も角も、今や地上に住む凡の人類が何れも個性に目醒め、人間らしく生きやうとする現代に在つて、この水平社の人間奪還運動は正に當然であらねばならぬ。否寧、何れの運動よりもモツト迅く起らなければならなかつたと思ふ位である。然るに政府を初め一般民の中に、水平社と云ふ團體は實に怪しからぬ團體である、實に不都合極まる集團である、飛んでもない奴が出來たものである。我々に對して宣戰の布告をなし挑戰的態度に出るなんて、彼等は爭鬪を履き違へて階級鬪爭を忘れ、民族鬪爭を以て目的とする許すべからざる集團であるなどと激怒し罵評を加へてゐる連中が頗る多い、それはまだ恕すとして、赤色主義者中、當然持つべき理解より遠ざかり尙この嫌あるに至つては實に呆れざるを得ないのである、それらの人達は、人間として人間を味ひ得ない、勿論知り得ない人間であると、いつても敢て過言ではない、と信ずる、蓋、眞に人間を知り而して味ひ得る者は決してこの水平運動を排するものでなく、勿論、激怒する筋合のものでもなく、寧、當然の歸結として人道上、心よき理解をなすべきものであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るからである。
抑も、水平社の運動は、これらの人達が推斷するやうな、爾、單純な、薄ッ片な、安つぽい、運動では決してない、それは、あのモットーで明に解る筈である、あのモットーは決して水平社にのみ限り適用せらるゝものでは斷じてない、即ち水平社獨特のモットーであると同時に、全人類としてのモットーであらねばならぬ。
崇高にして深遠な、そこに無限の人間としての尊き目的が見出され、凡ての批判を超越した運動であることが發見されハッタと叩膝し、必ずやある何物かを悟り得るであらふ。而して水平社の運動は決して部落民と普通民と肉彈的に戰はふとするやうな、そんな尻の穴の小さい運動では斷じてない、と云ふ事も、ハッキリと點頭かれるであらふ。繰返して言ふ奪はれてゐた人間を今將に奪ひ還さむとする人間としての運動であつて、所謂、人間としての革命である。人間としての革命！今や世は擧げて人間的革命を要求し而も行はむとしてゐる、さうして、それに向つて突き進んでゐる時である、即ち全人類は、より以上のユートピアを創造すべく焦慮しつゝ努力猛進してゐるのである。
また、「よき日」の爲にのみ水平運動も、一人部落民のみの憧憬では決してない、即ち全人類が、齊しく欲求するところであらねばならぬ。
見よ、彼の創刊せられたる機關雜誌「水平」の一ページの挿繪は、よくこの運動の窮極の目的を最も露骨に、當然と表現して餘りあるではないか。
今や水平社の運動は、日に月に、刻一刻、奕烈の度を加へ、熾灼として白熱化しつゝある。
近頃、政府がザワ〳〵とザワつき出して、部落改善費を增加するやら、又極く最近に至つては部落と云ふことそのものが良くないらしいと云ふので、公私共に部落と云ふことは言文に用ゐぬ事にする、なんて言ひ出した、實に馬鹿氣た骨頂で、頗るつきの周章方である、滑稽を通り越して寧、哀である。自覺せる部落民は、斷じて、そんな飴菓子的な、アハヽ、子供ではあるまいし、恩惠的な小刀細工に嘗めさせられたり、誤魔化されたりするやうな、それ程左樣にだい大人氣至らぬ低腦な人間ではない。この二つの事實は論ずるまでもなく、いくら政府の役人共が詭辯を弄しても、部落民が自覺

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

したと云ふ――意外な事實、即ち水平社の崇高熾烈な人間運動に縮みあがつた揚句のはての恐怖的塗壁策に外ならぬ、との罵倒評も恐らく辭む事は出來まい。凡人は蔭ながら至極痛快な事だと思つて、密に快哉の酒盃を傾けてゐるのである。こんな政府の、何を言ふて聽かせても、ちつとや、そつとでは中々に解らぬところの低腦のコンクリート化した頭の持主であるお役人連が、呪禁式な凹垂政策を擔ぎ廻つての援ぎをば、空吹く風のやうにしか感ぜぬ同人連は、エタが穢多になされ、穢多が惠多になされやうと、特殊部落民とか、細民部落とか、後進部落とか乃至は少數同胞とかに出世させられやうと、もつと進んで華族様に昇級させられやうと、[redacted]ぬ、ちつとも有難からぬ、――位なら未だしもである、寧反て、遠き祖先の始りから幾十代かを經て今日に至る間の祖先共が、一千年來、心骨に銘じて具に味つて來た、その慘酷非道の悲しい歴史を忍び、而も、その名によつて底光ある[redacted]との情熱をば培ひ得るところの尊き――聖き――崇高な、それこそ絶對に他に得られないところの純無垢な「エッタ」で澤山だ、と言つて、知らぬ顔の半兵衛をきめてグン〳〵と水平に向つて運動を進めてゐるのである。恰も、それはあらゆる獸の群を押し分けて驅け進む勝ち誇つた猛獸の王のやうに――又恰も無人の野を行くが如くに――。

一般でも政府でも、こればかりは「感情の問題だから」といつてゐる、それは丁度、如何とも仕方がないと云ふのと同じ事である、全く如何にしてよいかをさへ知らぬのである、であるが故に、あんな見へ透いた厭勝見たいな事をやるので尤も無理はないやうである、然し問題は違つてゐるが政府でも、口に言ふ丈は實にうまい事を言つてのける、所謂、過激思想取締法案に對する意見として曰く「人間の思想感情は同じく思想感情を以て取締るべきであつて必ずしも形式上の法律の力を借りて取締るべきものでは決してない」と、イヤ實に豪い事を言つて與れたと思ふ、敬服に價する全く是丈知つてゐれば澤山である、世話はない、政府は、これ丈の事を知つてゐてさて何故に、これを水平社の運動にも應用しないのであるか？　「感情上の問題だから」と政府自らこの水平運動に、この政府のお筆先を應用したならば「如何とも仕方がない」との途方に暮れた歎息語は決して出ない筈である、つまり喋るのは喋つても、實行する勇氣と應用の才がないので

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある、現にこの問題を感情上のものであると知つた以上、政府としては、すべて生半欠な療法はせぬ事に定めるが良い。生半欠療法を益持續することにより、それは反て、差別となり、反感を買ふ事になり、呪の標的となり、而して遂に政府自ら再び救ふ能はざる自滅の淵に陷溺する迄であるからである。

最後に、この水平運動が、人間の革命を叫んで起つてゐる以上、所謂、政府それ自身のお筆先である「思想感情」を以て之に對するより以外、如何なる方法を廻らすとも、すべてが徒勞に歸するのみならず人類の破壞に終るまでゞある事を敢て敎へて置きたい。

凡人は、水平社同人諸君に會ふ度毎に、現在より創立前後の過去への苦鬪と悲慘と、現在より未來への歡喜とを顧想して、何時もムク〳〵と譬やうのない感激に滿され涙含むのが常である、實際この感激の顧想に對しては到底、よく筆紙に表し得るところでない、それ丈水平社の運動は眞劍である、何者の運動も、その眞劍さには遠く及ばぬのである、純眞なと云ふ點に至つては、唯感激の涙あるのみである。況んや、水平社の青年同人諸君は揃ひも揃つて、何れも其土地に於ける可也ブルジョア階級に屬する家係に人と爲りながら、この運動の爲に、殆んど最近までは無自覺と云ふよりも寧、理解を與へなかつた兩親や緣族の人達の爲に——尤も同人の全部が、さうであると決して云ふのではない、中には兩親緣族から進んで鞭撻を加へて來てゐる人もあるが——その大部分が殆んど我家を追はれたと同樣の運命に陷りながらも尙且つ更に意とせずに、西に奔り東に驅り、住居の一定さへ得ずして、專念、運動に是從ひつゝ、一片のパンすら時には口せず、根限り、精限り、エナージの盡きはせぬかと氣遣はさせるまでに、あらゆる悲慘限りなき辛苦をば具に嘗め、辛ふじて遂に京都の創立大會まで漕ぎ着けた、と云ふに至つておやである。

その時の同人連の歡喜は外觀の想像を許さないまでに極度であつた、殆んど人の話も耳朶に響かず、人の姿も眼に停らぬと言つてよい程であつた。それ程、同人諸氏は歡喜と滿足と希望とに輝き充滿されたのである。勿論それまでには、悲しみもしたらう、悶えもしたであらう、泣きもしたであらう、なれど然し爾來、同人諸氏は決して悲しみもしなければ泣きもしない、勿論、悶えもしてゐないのである。即ち同人達は、自己が一個の個性の所有者で、而も、それが凡ての大自

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然に棲息せる生物の最高の、即ち人間であると云ふ目醒から、自布の存在を、この地上に自ら認むると同時に、非常なるそれこそ眞に非常なる決心をしてゐるのである。即ちモット虐げよ、モット〱迫害せよと、昨日の悲しみは變じて今日の喜と化し、挑戰の氣、漲つて、今や方に攻勢に轉じつゝ、内には眠れる同胞の喚起に急にして、外には戰の準備に忙がしく、オサ〱怠りない。「風雲將に急ならむとす、」との一句はかゝる狀態を形容して用ゆるための文句であらう。

かくして半、目醒させられたる部落民の中に、往々にして「吾々の祖先は實に意氣地がなかつた」などと如何にも自己が自覺し切つたかの如く憤慨するものがある、そんなことを聽く度每に、水平社の同人連は、反てその者に對し未だ「その者が半自覺の域に在る事を敎へ、それは決して吾々の祖先が意氣地がなかつたのではない、如何程意氣地を發揮しやうとして、一千年來、どの祖先も〱、いくら悶躁いた事であらうか――それは恐らく我々が今日、その踠きの萬分の一をも想像し得ない、それ程全く、慘虐された事實が甚しく而も多過ぎたのである――然れども人鬼のやうな非人の多數者の爲めに、折角の意氣地も極端に壓へつけられてゐたのである」と、潸然として淚と共に諭し、モット〱自覺して人間にかへれ、と促すのが常である。げに、如何なる場合に於てもエタは外道として治外に置かれ、ドエツタと罵倒されて一切の社交を絕たれてゐたのである、時の法律にまで「日の出より陽の沒りまでは町内の徘徊を禁じ、如何なる炎天の下の夏の日も、頭に帽笠を戴くを許さず、霜柱立つ冬の日も、足に木履を穿つことさへ嚴禁した」程にその虐は極度であつた、而かも時には土足に、或は略掞に――それはまだしも、エタの虐殺は常に行はれ、犬猫はおろか、大根の莖を撥る位にしか考へず、全く牛馬の扱ひよりも尙一層、甚しかつたのである。

斯して彼等は、彼等が幾千年來の、あらゆる侮蔑と虐とを蒙つて來たといふ事實が、如何なる無自覺の部落同胞に對し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ても、最後に、强き自醒を與へ、眞實の人間的叫びを擧げしめ、而かも、か丶る慘虐史を有たない一般の何れのものよりも、より早く、全人類が想像し欲求しつ丶ある、ユートピアに近づかしむるのである、即ち、より速く近づき得る可能性を彼等の全部が必ず持つてゐるのである。何と云ふ、部落民は、幸福な人間共であらう、凡人は、この意味からして、凡人が、これを彩色る慘史の一ページはおろか、一行さへ又この可能性をも不幸にして有たない事を、密に甚だ遺憾とするものである。

凡人は常に、こう密に信じてゐる、彼等の叫びが、眞に人間に自ら還元せむとする叫びであり、彼等の運動が、眞に人間革命の運動である以上、すべての人は、恐らくあらゆる世の批判を超越せる、この叫び、この運動について、必ず新な何物かを學び、且つ求め得らる丶であらう。

水平社同人諸君は、今は全く疲勞の極に達してゐる、即ち同胞自覺促進の運動に――傳宣に演說に――或は又、各地に依然として起る古ながらの差別慘虐事件に對する、徹底的糺彈且つ解決に、或は亦、軈て起らむとする精神的乃至肉體的の虐殺事件に對する應戰の準備に――その肉體はグタ／＼である。

それでも一度問題の勃發するや、宣傳の爲めに四散せる同人は勿論、全國に散在せる各地の水平社に檄を飛ばし、直接糺彈に、演說に、猛虎の荒狂ふが如く活動し而も尙、未知の同胞と雖も一堂に會する時は、過去の慘虐の歷史と、希望に輝く「よき日」の未來とを語り明し徹夜する事は珍らしくない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

[redacted]なり）

或る夜のこと

平野小劍

○

或る寒い晩であつた。或る場所に集會があつた。そこには各勞働團體の鬪士も揃つてゐた。共産黨の連中も、若きアナ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

キストも混交(まじ)つてゐた。それ等の人々は、口を尖らして泡を吹き腕を扼して頻りに一つの大きな問題を論議してゐたと云ふよりは、殆んど喧嘩腰で議論してゐた。

議論の中心問題は『合同分裂問題』であつた。

その問題は仲々に凫がつきそうもなかつた。俺は暫らくぶりで、斯うした集會に顔を出したので隅の方に小さくなつて人々の議論を傾聽してゐた。約二時間位も猛烈に啀み合つてゐたらう。それをなんだか詰らないことを議論してゐるものだと思つたので、少し前に配られた煎餅を噛りながら或る種の別なことを考へてゐた。その中に議論疲れでもしたのか、それとも矢張り喧嘩腰の議論は詰らぬものだと思つたのか、先程の騒々しさよりは可成りに靜かになつた。

恰度その時であつた。一昨年の暮頃まで、共に神田の或る同じ印刷工場に働いて居つたSが俺のそばにやつて來て。

『水平運動の話しをして吳れないか』と、云つた。

『話してもよいが、皆んなが聞いて吳れるかね』

Sは、早速そのことを人々に計つた。『誰れも反對をする人もないらしい。』と云つて俺を紹介した。紹介される俺も他の人々も顔を知らないものは一人もゐないのに殊更に、

『水平運動の闘士』だなんて云はれると擽ぐつたい氣がした。そして詰らない紹介振りだなと思ふと腹立たしくなつた。そして止そうかしらとも思つた。

だが、紹介されると立たない譯にも行かなかつた。後ろの柱に凭れて立つた俺は、その瞬間に何だか恥しいやうな氣がした。顔が一寸赤くなつたやうな氣がした。そして肩身が狹まいやうな氣がした。

『ヱタの子に生れた俺は矢張り不幸な者だな』と、思つたからであつた。その次の瞬間にこんどは、

『此處にゐる人々の祖先も、此の人々等も、俺達兄弟姉妹を、ヱタよ新平民よと罵つて苦しめた敵の片割れだな』と思つた。そう思うと俺の全身の血潮は逆上しそうになつたのを覺えた。

『どうした早く話を聽かせてくれ』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

誰れかの聲が大きく響いた。俺はハツと思つた。

『何を考へてゐるんだ』と、亦た誰れかが怒鳴り出した。そうなるといよ〳〵胸の皷動が烈しく波打つて反抗的な暴力的な敵愾心に驅られて、

『今、話しをするから少し待て』と怒鳴り返さずにはゐられなかつた。そしてお茶を一杯飲んで語り出した。

今日まで部落問題に力を入れた種々雜多な何々會とか、何々團とかがあつた。それ等は皆吾々三百萬民族を僞善と僞瞞、詐術の魔醉藥で部落の兄弟を墮落させて居つた實例、同情的差別撤廢の差別的運動の失敗、部落改善家の官吏、官憲の結托による不正行爲の實例、水平運動の鋒火に驚いて慌て出した内務省の所謂進歩的改善策の失敗に終ることの必然の實例資本主義的改良策が齎らす效罪、明治、大正を通じての血と涙の殘虐の物語りをした。――殘虐史の中には昨年二月十一日吳市に起つた愛らしい十三歳の少年が、學校に於ける敎師、學童よりの差別と迫害とに堪え兼ねて、『十三までしか生きられない』と、悲痛なる遺書を殘して線路の錆と消えたと語つた時は、集まつてゐる人々の面には涙さへ浮べてゐる人もあつた。――

結局部落問題の解決は、俺の信ずるところは――自由意志的結合の社會の創造――そこまで到達しなければ絕對に解決がつくものでなく、人類最高の完成は明確にそれを暗示してゐるものだと思つてゐると語つた。そして水平運動の急促の發展はスバらしい勢で進んでゐる。大會や宣傳演說會の模樣なども問はるゝまゝに話しをして坐らうとしたときT組合の一人が、

『水平運動は部落のブルジヨアーと手を握つてゐると云ふが、それでは依然として只だ單なる差別撤廢の運動としか見受けられないね――。』

その問ひに、俺は少からず腹立たしく感じた。俺達の水平運動は、日本に於ける最下層のドン底生活者のみの集團運動だ。と語つたのを聞いてゐなかつたのかしらと思つたからであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『俺達の運動は、都會の勞働運動者や社會運動家の口先きばかりで尾行と驅け比べはしてゐない』と、極めつけてやりたかつた位であつた。だが、俺は

『それは君等の觀察の正しいか、誤りかいづれ判る時節が來るだらう……』と、云つて相手にしなかつた。今度はS組合の一人が、

『勞働團體の中にゐる人々で、部落出身者が他にゐないかね』

『澤山とは云へないが、五人や十人どころでなくモツトゐるでせう。俺はそれ等の人々を知つてゐる。しかもそれ等の人人はその部落出身を秘さねばならない理由がある。それを語るに俺は忍びない。一言で云ひ盡せば、いくら社會運動の群れに入つてゐても傳統的賤視觀念を怖れてゐるからだ。モウ時代が時代だから名乘りを上げて堂々とやつてくれゝばよいと思つてゐるが、それが出來得ない社會的環境があるからだと思ふ』そう云つたものゝ俺自身でさえ一昨年邊りまではつとめて秘くしてゐた。秘くし切れなくなつてではないが、時代が來たと雀躍して名乘り出せば、恐ろしいほど仲間の者から排斥されたこともあつた。冷たい人の心の移り變りを見たことがあつた。

『社會改革者だなんて自任してゐながら、俺一人さへ抱容し得ないものが今の勞働運動者だ。社會主義者だ。無政府主義者だ』一昨年の夏頃の日記に認めた事を思ひ出した。この實際のあつたことを語つて、

『だから、殊更に名乘れ、名乘れと迫ることも出來ないでゐる』

『それ等の人々は卑怯だね。今日となつて、吾々の仲間にはゐまい。』

『卑怯と云はれやうが憶病と云はれやうが、迚も第三者の人々には判りやうがないことだ。』

俺は突慳貪に答へた。

『特殊部落には美しい女が多いそうだと云ふが眞實かね。――どうだらう社會運動者に一人々々世話をしないか……。』

『そうだ、そして金持も澤山あるそうだから持參金つきツて奴で夫婦（いつしよ）になりたいな。』

『持參金つきなら俺達も貰つて、その金を社會運動の資金にしたい……』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『朝鮮の女や支那人の娘よりは、いくらか氣持がよいだらう生活樣式も變つてゐないからな……』
『女に緣の薄いものは特殊部落から貰つてはどうだ』
『職工だからとて喜んでくるだらうよ』
俺はこれ等の話しを聞かうとはしなかつた。だが、人々は俺を目がけて話しをしてゐる。俺は餘りに堪え兼ねて、『冗談も休み〳〵喋舌つてはどうた』と怒鳴つた。そして『敵の片割れに誰れが世話が出來やう』かと云はうとしたがそればかりは思ひ止まつて、
『君等は口を開けば、勞働者よ團結せよ。萬國の勞働者團結せよと叫ぶがよく。唇に風が引かないね』
と附け足してやつた。彼等は此の一言に默つて了つた。俺は言葉をつゞけて、
『それのみでない、コスモポリタンだとか、自由戀愛、自由結婚の讃美者だなんて云ふものに限つて、人間が人間の道德を知らないものが多い。矢つ張り俺達は凝結せる現代資本家的道德の羈絆から脫しきれないでゐるんだ。口幅つたいことを云々してゐても、君達はお祭りの神輿(みこし)擔ぎの連中と同じだ』
『オイ君、冗談に話したんだ。そう怒るな……』
『冗談とは俺は思はない。例へば冗談だとしても餘りに見えすいた冗談だからな』

○

俺はその後殆んど集會に顏を出さなくなつた。

──(一九二三・一・一夜)──

本號卷頭題言は、水平社同人の高橋貞樹君を煩はした。尙この他に水平運動に關する論文を頂いたが、編切後で間に會はなかつたから次號に廻した。執筆者並に讀者諸君に謝す。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

水平社訪問記

佐野學

私はこの一月四日から七日までの間、奈良縣水平社の阪本清一郎君の宅に厄介になつてゐた。そこで同社の人々から暖い歡待を受けたことは私の永く忘れ得ないところである。そこは大和國の中央であつて、後に小高い丘を負ひ、前には小川が流れ、善く耕された田が四方に擴がり、其間を坦々たる道路が縫ふてゐる、平和な姿をした村落であつた。遠い山々の靜かな姿を見て、私は日本書紀の神武紀の「東に美地あり、青山、四方に圍る」といふ文句を思出したほどである。しかし此土地――南葛城郡掖上村柏原――こそ、日本の社會運動に突如として勇姿を現はした水平運動の發祥地である。水平運動が起つてから僅かに一年である。しかるに其勢は燎原の火の如く全日本に擴大し、絶望と悲憤とに暗くなつてゐた部落の人々の心に一大光明を點じ、殆んどすべての老幼男女を奮ひ起たしめてゐる。私は新春早々、この水平運動の故郷を訪問したことを甚だ幸福に感じてゐる。

○

私は水平運動を絶對に讃美する。水平運動は深刻な苦惱を擔ふてゐる人々が、自己の力を以て其鐵鎖を斷ち切らんとする勇敢な行動である。美事な規律、自主自立の精神、一貫せるプロレタリア意識、徹底的な協同動作、かくの如き水平運動の諸要素は、被搾取者の反抗運動にとつて誠に貴きものである。將來の日本の新社會を生み出だすものは、勞働者運動と農民運動と水平運動とであるとは、私の深く信ずるところである。水平社の綱領に「吾等は人間性の原理に覺醒し人類最高の完成に向つて突進す」といふ一項があるが、單純の復讐を超越した此の一句は實に懦夫をも起たしめるものである。

私は一昨年の七月の「解放」に「特種部落民解放論」といふのを書いたが、此一文は水平運動の勃興に極く微少ながら一の暗示となつたそうである。そのために私は水平運動に特別の親しみを感じてゐる。あの一文を書いた時の氣持を今も

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思ひ出す。私はそれを書きながらも、今日まで部落の人々の被つてきた迫害と慘苦とを悲しみ、社會組織や歷史的傳統の不義不正を怒る感情を抑へ得なかつた。古代バビロンの法典に記されてゐる「齒には齒を以て報ひ、眼には眼を以て報ひよ」といふ復讐主義の條句や、猶太人出身の大學敎授ゾムバルトの「戰ひは猶太人の收獲である」と言つた言葉などが頭に浮んできた。私は一切の妥協を排し部落出身の人々が一大團結を結んで自主的運動を起すべきことを論じて其一文を終つたが、當時何等かの行動を起さんとしつゝあつた柏原の諸君に對し、それは何程かのキツカケの役目を演じたのだそうである。平野小劍君から來た最初の手紙に「貴君の一文は我が種族のための曉鐘であつだ」といふ文句を讀んで、私は實に嬉しい思がした。私は文章などを以て社會に献身しようとは思はない。また水平社の運動は起る可くして起つたものに外ならぬ。しかし私の心が柏原の諸君に通じたことは潜かに深く光榮とするところである。それ以來、私は水平運動の發達を蔭ながら祈り、その發展を已れのことのように嬉しく感じてゐる。今度、柏原を訪ねて未見の人に逢ふても決して初めて逢ふような氣がしなかつた。

〇

私は滯在中に「階級制度の歷史」「民族的壓迫及び民族運動」「社會主義の社會」といふ三つの話しをした。場所は西光寺といふ小寺の本堂であつた。この寺の息子である清原一君も水平運動の先頭に立つてゐる一人である。清原君は體は弱いが、熱血滿々たる人である。同君は嘗つて美術院に學んだことが有り、繪が上手であるが、たゞの繪かき共のようなイヤ味なところは毫もなく、寧ろ任俠な、一種の强い性格を持つてゐる。本堂に集つた人々は各地水平社の幹部や有志の人であつた。奈良縣の各地や、名古屋、松阪、大阪、京都の諸君の顏も見えてゐた。私のまづい話も熱心に靜かに聽いてくれた。社會主義の話をしたとき、ニヤリトと快心の笑を洩らした老人のあつたのは嬉しかつた。其話の果てた後、數人の人が本堂に殘り、そのやうな世の中がいつ來るかと熱心に話をしたそうである。或る中老人が「五年位立てば來るだらう」と言ひ、他の人がそれに對して「どうして、それがわかるか」と尋ねたら、「でも、そう思ふ」と答へたそうである。論辯を超越した、この「思ふ」といふ一語は誠に意味の深いものが有る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私の話は二晩續いた。話が濟むと、二三十人の人と共に方丈で遲くまで話してゐた。多くの勇ましい話、哀しい話、痛快な話を聽くことが出來た。普通民の無理解非道の話をきく時は、私も一身の血の逆流する感じがした。また官吏の暴惡を懲らし、普通民の偏見に大鐵槌を加へた種々の物語りをきいた時には、暗夜去りて曙の近づく感じに打たれた。話は中中に盡きなかつた。演說會で警察官が自己の無力を自認して「[redacted]と負け惜みを言つた話、十四歳の少年に尾行がついた話、差別的言語を發した普通民に低身平頭の謝罪をさせた話、兒童を侮辱した小學教員を襲擊した話など、話題はそれからそれへ續いた。

○

阪本君の家に水平運動に關する新聞の切拔き帳がある。その中に特種の謝罪廣告が載つてゐる。それは水平社員に對して穢多云々の差別的言語を發した普通民の詫證文である。それは「拙者義貴殿に對し何々街道にて差別的言語を發したる事は重々惡い事と自覺致し玆に謹で謝罪致候、猶今後決して左樣のこと申上げまじく候」と言つた文體である。關西地方の普通民は、依然として昔ながらの賤視感情を抱いて居り、ややもすれば是れを口にし、怒鳴り込まれては直に意久地なく謝罪するのである。この例は小學校教員の中にも少くない。

昨年、小林小學校襲擊事件といふのがあつた。それは一教員が一兒童に對し穢多云々の言語を弄したことから始まつてゐる。是れを聞いた兒童の父兄は激怒し、學校を襲ふて該教員、校長、區長を擲りつけたのである。この爲めに數人の人が騷擾罪の名の下に收監せられ、禁錮六ケ月其他の刑に遭ふたのである。私はその中の首魁と目された木村京太郎君と大阪で逢ひ、柏原まで同行したが、生年二十二歳の同君は優しい顏の人であり、此の如き人をも激怒せしめる小學教員の愚蒙を憎まざるを得なかつた。しかも其小學校教員は依然として其小學校に勤務してゐるそうである。彼は果して學校で何を敎へてゐるのであらう。また文部省は彼等に何を敎へしめてゐるのであらう。（猶ほ木村君の獄中記が「水平」第二號に載つてゐる。その直情に溢れた敍述は思はず人を涙ぐませるものがある。）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

以上の如く賤視觀念は今も中々に脱け切らぬ。吾人はこの凝結した歴史的傳統を見て嘆息せざるを得ぬ。かくの如き傳統は一片の理性によりて消滅せしめ得ない。一大鐵槌を以て是れを破壞する外はない。

〇

最後の夜、寺から一時頃に阪本宅に引き上げた。それより三時近くまで、阪本君と私と東京より同行した某君と三人で牛鍋を煮ながら又色々の話をした。その時、阪本君が同君の少年時代の話をした。

同君は小學を卒へた後、奈良の商業學校に入學した。全校數百人のうち同君たゞ一人が部落出身である。直接間接の差別的待遇が同君の一身に集中した或る時、一人の上級生が阪本君に命令して或る柔道の强い男と相撲をとらせたそうである。阪本君は滿身の怨恨を籠めて力鬪し、終に其男を投げ付けて氣絶せしめたそうである。また或時は差別的待遇をした敎師に硯を投げつけたそうである。「そんなことですから、學問に身の入る筈が有りません。そして中途で退學したのです」と、同君は昔を忍ぶ眼をして言つた。同君はそれより滿洲や支那を放浪した。「然しどこに行つても特種部落云々の言葉をききます。勿論、私の身分は分らなかつたが、廣い天地のどこにも身の置き處がない氣がした、又こゝに歸つてきたのです」と同君が語つた時、私も某君も聲を呑んだ。

〇

私の出立する朝は美しい小春日和であつた。私は清原君と後の丘に上ぼり、そこの腰掛にかけながら色々の話をした。清原君は水平社創立當時の話をした。最初、水運平動の趣旨は村人よりも親よりも善く了解されなかつた。阪本君と清原君と駒井君とは村端れの小さい家を借り、そこで繩をなひながら、燃ゆるような希望を抱いて色々の計畫をしたのだそうである。「向ふに見えるのが其家です」と指される方向を見ると、なるほど小さい家が村端れに立つてゐる。最初、老人たちは水平運動に反對であつたらしく、また今も反對の人があるそうである。現に駒井君の如きも父君の家を出て、今は奥さんの里に假寓してゐるのである。清原君の寺のすぐ前であるが、駒井君がその家を指して「これが私の家ですが、水平運動をやり出してから一度も歸らないのです」と言つた前夜のことを思ひ出した。清原君とそのやうな話を

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

してゐる内に阪本君も駒井君も、また隣り村の三浦大我といふ任侠な坊さんも丘の上に登つてきた。それから清原君の家に行き、前夜から見えた米田君なども加はり、午過ぎまで賑かな話をした。

○

水平社の運動は感激に滿ちた運動である。阪本君が「私達は自分自身のために運動してゐない。天意を受けてやつてゐる氣がします」と言つたのは、同人諸君の氣もちを語るものであらう。事實上、このような宗教的感激が感じられる。この氣持は實に貴い。一千年の大苦痛に試錬された人こそ、初めて此不撓献身の心になれる。また水平社の人はみな仲が好い。同人諸君が仲好く話しをしてゐるところは羨しいほどである。また水平社の人は勇敢な氣象を持つてゐる。一方に强烈な共同心があると共に、他方に於て個々人が各々活動の單位となつて動いてゐる。或る時、或る軍隊に於て一中尉が部落出の一兵卒に向つて侮辱的言語を發しな時、その兵卒は猛然として其中尉の腕を摑んで聯隊長の面前に引きずり行き、謝罪せしめたといふが、この一人と雖も千萬人の中に行かんとする勇氣は實に讃美せざるを得ぬ。また水平社の運動は民族運動であると共に階級爭鬪的運動であり、純潔なるプロレタリア精神を以て一貫せられてゐる。また規律が極めて美事である。一度、召集狀が飛ぶと、名古屋、三重其他の地方よりも忽ち輕捷敏速に集つてくる。その動作は心は違ふが恰もファシストの輕快なるに似てゐる。

しかし水平社の人々の事業は前途に山の如くに存してゐる。未だ水平社の原則を知らない部落の人々も多い。また一般社會は職業についても、住居地域についても、敎育についても昔ながらの迷妄より脫却して居ない。また部落内部の金持は水平社の運動を妨害しようとしてゐる。資本家政府は水平運動と他の無產者運動たる勞働運動や農民運動との結合を何よりも恐れてゐる。しかし苦痛と艱難とは人たらしめる。

私は柏原で逢つた人々の厚遇を謝すると共に、全水平運動の發展を祈る情に堪へない。(歸京後三日目に記るす)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蒸し返しの過激法案

「過激思想取締法案」といふ亡靈が、またそろそろ出かゝつてゐる。人の噂では、昨年出た時よりも、いくらか凄味をうすくして出て來るそうだ。しかし僕たちには、そんな隈取りの玩味などは、どうでもよい。ゆはゆる過激思想の根を斷やそうとする亡靈の呪ひに、毫末の變もない。

この亡靈は、君達には有難いものではないのか。まがひものは、この亡靈の凄味にふるえて引込んで仕舞ふ。本ものは、その官設掃除機關のおかげで、反つて仕事がしよくなる。昨年これが出た時、某大學教授はさう論じた。すると、これはしめたとばかりに、內務省あたりの大役人小役人が、この假仕込みの理論をふりかざして、若い新聞記者たちをやり込めて得意になつた。こんどはまた無政府主義者の偉がり共が、この三番煎じの理論を擔ぎ出して、自分の本ものたる裏書をした氣で、空うそぶいてゐる。

ところがお氣の毒にも、僕だちには、この亡靈の呪ひの底が分り切つてゐる。まがひものを追出すためなら、いま頃不評判千萬な亡靈を使ふ必要はない。本ものの頸根つこへ喰ひつかせるために、この亡靈が必要なのだ。本ものを根絶やしにしやうとするのがその呪ひだ。

だから、本ものゝ成長のために、未來をたゞそのことに依つてのみ信じて、日夜に、小さな自己の骨身をけづつてゐる者からすれば、そんな放げやりな事は云つて居られぬ。そんな屈從に甘んずることは出來ぬ。赤子の口を塞がうとする鐵の手を、赤子の健康試驗だと言つて澄して觀てゐる人の父が、どこの世界にあるか。

僕たちは、一せいに立つてこの呪ひの手を拂ひ除けねばならぬ。僕だち兄弟は、どんな草の中、水の上に散らばつてゐる兄弟も、手をつなぎ合ひ、肩をかさね合つて、その前に人垣をつくらねばならぬ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

飢ゑたるロシアの兒童を救へ

（十）

昨年七月以降十月に迄わたつて開かれた勞働者インターナショナル露西亞救濟委員會の第三回伯林會議の結果向ふ一年間の新しい計劃が出來上つた。それは今までの單純な飢饉救濟運動でなくて明確に三つに分けられた新しい企であつた。即ち

一、勞働者の貸附（勞働者インタナショナル露西亞救濟委員會發行の一種の五分利附公債賣出）
二、食糧小包送り出し
三、兒童の家建設

である。無論この第三回會議以前に於ても『單純なる救濟運動』の埒を越へて、或は自ら船を仕立てゝ食糧品や道具を送るもの、或は熟練工數百名を送りてロシアに積極的な建設事業を營ましめるもの、其他金錢以外に種々なる手段によつて飢餓から、は或生産力缺乏からロシアを救はんとした萬國の無産階級の活動は實に凄じいものであつた。併し乍ら今後の無産階級としての露西亞救濟運動は、飽くまでこの伯林會議の決議を尊重して行かねばならない。全世界の無産階級の救濟運動を、統一的に有機的にしやうとするのが、即ちこの伯林會議であらねばならないから。

（十一）

顧みて日本はどうであつたか。日本の運動はたゞ金錢的救濟運動であつた。事實、船を儀装して救濟に出かけるとか、道具を送るとか、食糧を送るとかいふことは今の處一片の夢想にすぎない。そのことは、全世界の無産階級として、救濟運動の實行期の他と比して、遙かに遲かつた事情から云つてもあまりに明瞭すぎる程の明瞭である。

日本の無産階級は在伯林勞働者インターナショナル露西亞救濟會に加盟してゐるだらうか。否そんなことはどうでもいい。無産階級より集めた義捐金はこの會の手に入つてゐるし、又事實上無産階級の飢饉救濟運動も全世界の無産階級としての共通意義を以て行はれてきたのだから。

然らば僕たち日本の無産階級は上記の三つの案の中何れを行はんとするか。最も可能であり而も最も有意議なもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を以つて最上としなければならない。それは兒童救濟を措いて他にあり得ない。

(三)

相ついで起れる Ctastrophes ——戰爭、封鎖、飢饉——は罪のない何十万の兒童を家なしに、孤兒にし、飢へさせ、健康を破壞させた。嗚呼それは何人の罪であつたか、僕たちは餘りによくそれを知つてゐる！

戰爭——歷史上最初の……無產階級國家をあの資本主義諸政府の犬であるコルテヤック、デニキン、ウランゲル、セミヨノフ etc. etc の魔手から救はんと邊境に出征した父親たちは遂ひに再び還らぬものがあつた。

封鎖——『犬』共の失敗を知つた資本主義諸政府の次に採るべき手數はこの封鎖であつた。彼等こそ文明を破壞すべき惡魔ではなかつたか。

飢饉——それは餘りによく知られてゐる旱魃(かんばつ)、內亂、封鎖、わが子のため一片のパンの殼でも探し求めんと家を出た、飢へきつた父親は遂ひに還つてこなかつた。

諸君よ、プロレタリアの子たちよ！何十万といふ新時代の子(ニユーゼネレーシヨン)——ロシア革命の相續者——は今や滅亡に瀕してゐるのだ。

もしもソビエツトロシアにして生存すべきものであるならば、この兒童たちも亦生存すべきものではないか。未來は兒童たちの肩にかゝつてゐる！ これら無數の兒童たちを收容し、これに家と食物と養育を與へるのは、僕たちプロレタリアの義務でなくて何であるか。

僕たちはこの仕事のために諸君の時間と金を要求する。第一、諸君自ら一人の孤兒を收容せよ、第二他の私人或は家族に一人の孤兒を收容する樣に說服せよ、第三諸君の勞働組合、諸君の友愛的社會的、慈善的團體をして一團の孤兒を收容する樣に說服せよ。

諸君よ、諸君は即刻この仕事を始めねばならない。

憐れな、孤獨な、飢へたる兒童は今や暖き椅子と、一片のパンを諸君に嘆願してゐるではないか。諸君は、諸君の金は奇蹟を齎らすであらう！

(四)

伯林會議の決定によると兒童救濟の計劃はこうである。先づ各國別に救ふべき兒童の數を豫め決定して置くのである。全部で二萬人救ふことになつてゐる(例へば英吉利委員會には五百人割り充てられてゐる) 舊貴族の邸宅を改築して各戶に百人宛の兒童を收容し、十戶を A childen's col-

onyと稱して病院を一つ附屬させる。そして兒童一人當りの設備費が約十圓、一人當り一ケ月維持費約四圓である。

僕たちは、大變尠いが先づ五人を救ふ計劃をたてた。即ち設備費五十圓、維持費毎月二十圓である。幸ひ廣告欄にある樣に飢饉救濟のための秋田氏や賀川氏の戲曲集或は創作集が出ると印稅が寄附されるから一回切りの設備費の成算はついてゐる。そして勿論本が賣れれば賣れる程印稅が入るのであるから諸君の一人でも多く購讀されんことを望んでやまない。又毎月の維持費も奮つて寄附して貰ひたい尙特定の兒童を指定して救濟してもいい事になつてゐるが日本人には必要あるまい。けれども今後諸氏僕たちの手で救はれる兒童の名前や住所や寫眞等も要求によつては送つてくれる相であるから未來のロシアの主たるべき兒童たちと今から同志としてある交りが出來る譯である。何といふ歡ばしいことだらう。

もうこの兒童の家は勞農政府の手によつて可成り出來てゐる。工事中のものは澤山ある。例へばチエラヤビンスクやワアリワイレルはもう立派なのは出來上つてゐる。そして佛、獨、瑞典、其他諸國の勞働婦人たちが献身的に或は看護婦に或は敎師に或は監督としてこの聖業に從事してゐる。僕たちはこの意味に於て特に世の婦人たちに愬ふるものである。

規　　定

一、兒童五人設備費並に一月維持費合計金七十圓を以て第一回送金とします。

二、寄附金額には制限はありません。

三、送金方法は成るべく振替を利用されること。

四、設備費に幾何、維持費に幾何と分けたい方はその旨明記されること。

五、毎月一人當り維持費(四圓)を出す餘裕のない方は毎月人半分(二圓)又は四半人分(一圓)或はそれ以下でも毎月つゞいて送金下さればこの救濟運動の眞精神に合致するでせう。位し毎月一定額送金して下さる方はそれを豫約する旨を附け加へて下さること。送金は向ふ一年内を以て第一期るします。

六、この救濟運動を全國化する一方法として地方の讀者諸君が中心となつて兒童の二人でも三人でも救濟する會を作つて頂きたいこと。それと本社とは必ず連絡をつけること。

七、用件は種蒔き社ロシア兒童救濟掛宛照介して下さい。

一九二三年一月

種蒔き社

振替口座東京五九三八七

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

赤列車

黑煙

中西伊之助

×

作家は批評家に保護されるものでも、指導されるものでもないと僕は思つてゐる。飽くまでも相對的に獨立した存在だ。ところが、こんな判り切つたことを、中にはそんな風に考へずに、保護者面をしたり、指導者面をしたりする手合が、たまにある。そして、場合によれば、そのために自己の聰明を掩ふ結果になるのは、少しく氣の毒に感ぜられる。

×

プロレタリア文壇も、いよいよ本腰になつて來たやうだ

これ等は、もうブルジョア文壇への挑戰なんかはやめて、お互ひの仲でいがみ合ひ、みがき合はねばならぬことになつた。安成二郎君も云つたやうに、現代がブルジョアの支配下にあるかぎり、ブルジョアの文學乃至趣味と云ふものはほろびない。むしろ、その點から云へばプロレタリアの文學が起ると云ふことが、僕には不思議なんだ。二割や三割の賃銀値上の要求をしてさへ、すぐ官憲と資本家に叩き潰されて、監獄へぶちこまれるのだ。小説なんかのん氣なものを讀んでゐられるかい！　ただ、この場合、プロレタリアに取つて必要なものは、そのブルジョア社會を滅す武器としての小説だ。階級戰としての Ueapon となる場合にのみに今のプロレタリアの藝術は意義を生ずる。その外のものは一切不必要だ。古い文句だが『シエクスピヤよりも長靴一足』の方が今の日本のプロレタリアに取つて必要である。

×

日本のプロレタリ文壇にも、もう分裂が生じて來ていゝ時代だ。戰闘派、非戰闘派――なんだか妙だが、とにかくもう一つのアンダアカーレントが、プロレタリア文壇にも流れて來たやうに思ふ。近い話が平林之初輔君が、「種蒔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き」同人の小説はまだだめだと云つたやうな口吻があつたそして階級意識がどこにあるのか、さつぱりわからないやうな小説を非常にほめてゐたやうだ。やつぱり、平林君も藝術至上主義かな？と首をひねらせた。

僕は、今までの小説の中で、「種蒔き」で讀んだ小説が、一ばんプロレタリアらしいものだと思つてゐる。細井和喜藏、金子洋文、松本弘二、今野賢三、津田光造、山川亮、それに松本淳三と來たら僕の推賞措かない詩人だ。なるほど、この連中の小説はかなり亂暴だ。所謂非藝術的だ。ただ戰鬪精神ばかりが、先きへのめり出してゐる。とても自然主義張りの落ちついたものではない。しかし、プロレタリアの小説は、それでいゝんだ。ブルジョア張りの技巧や表現なんぞ、やらない方がいゝのだ。ただ種さへ蒔いて行けばいゝのだ。僕は前田河君の劇賞がほんたうだと思ふ。

殊に細井和喜藏君の「ある機械」、金子洋文君の「廢兵と赤電車」、新井紀一君の「煽動」なんどは、十一年プロ文壇の傑作だ。新井君の如きは、「二人の文學青年」なんて下らぬものを書いてゐないで、大にこの「煽動」のやうなもの書をくことだ。でなければ、同君は墮落だ。

×

僕はプロ文學者連に獻言する。諸君はコソ〳〵と書齋に閉ぢこもつて、原稿用紙と睨めつくらをして、原稿料や印税を胸算用してゐないで、少しく勞働爭議や、小作爭議の中へ飛び込んで、巡香から頭の一つもぶんなぐられたり、寒中一晩ぐらゐでもいゝから留置場で慄えて來てみてはどうか？そうしてたらもう少し、階級意識のはつきりした、戰鬪精神に富んだもの が書けるわけだ。そして二言目には、マルクスがどう云つたとか、クロがかう云つたとか云はなくなるだらう。諸君が机の上で理屈をひねくつてゐる限りとても諸君の手で現在のプロレタリアの胸を搏つやうなものは出來はしない！

×

だからと云つて、僕はなにもマルクスやクロポトキンを無用だと云ふのでない。あの人達の本は十分に讀んでゐるほど多くの啓發をされるのは云ふまでもない。僕だつて暇があれば一生懸命に讀んではゐる。しかし、日本のプロレタリアは、ドイツや英國のプロレタリアでない。ロシアのプロレタリアでない。世の中は、マルクスの云つた通りばかりでもなければ、クロポトキンの云つた通りでもないのだ。それを金箇玉條に心得て、なにかと云ふと、それを引

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つぱり出すから、ふふんと笑ひたくなつてしまふばかりだ

十

プロレタリア文士よ、街頭へ出でよ、工場へ、農村へ、汝の種を蒔く先きに、汝の種を仕入れに出でよ！

電車に乗つた夢の中で思つた事

細井和喜藏

◆

僕がプロレタリア・ゲイジュツのことに就いて何時も考へてゐるのはその取材に在る。僕は至極貧乏で、買へない上横着で餘り本を讀まないから、結局僕一人の私見に止まるが、尠くともその取扱ふ材料は大勢の意思や生活に通じるものであつて欲しい。

小説なら小説に描かれた事柄が、何ぼ少數に見ても五千人や六千人の共通な生活であり意思であつて欲しいのだ。また當然さうあるべきだと考へる。この廣い世界で五十人や百人が辿り行く運命を寫し、五七人の偉いとか云ふ人が考へるやうな特殊の意思ではあつて欲しくない。そんなものは僕に執つて糞の役にも立たず、世界中の批評家が聲を揃へてほめそやしたつて一行も讀んで見る氣にはならん。

隨分物好きな僕ではあるが、アインスタイン一人にしか能く判らないやうな相對性原理だとかはまあ當分必要がないのだ。太陽の光線が曲んで居ると知つたとて僕は些とも腹が膨きくならんし、矢張り一人で飯を炊かねばならん。そんな本を讀む金があつたら、僕はまた千束か龜戸へインバイでも買ひに行くと云ふ風だからねえ。脫線！　ボールがスタンドした。

ジョーウジ・ソレルとかは「民衆馬鹿說」と云ふ說をとなへたさうだが、よかれあしかれ大衆は僕は好きだ。黑い鴉を民衆は白だと云ふやうなことがあり、實は黑いのが本當で民衆の白は慥かに間違つてゐてもいゝ、兎に角僕は大勢の見た白で一向差支へなく通して行く。大勢でなけりや何事も出來はしないから――。

さて元へ戻つてお氣の毒だが大分耳の痛む人もゐやうがプロ文學の商票を貼つたものに、どうだ文壇のことなどを書いた作があるが？　僕は文壇のことが中味になつてゐさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うな題の小說が近頃と云つても去年だがあつたので、併し内容も一寸は見ねば濟まぬと蟲酢の走るのを咏へチョイチョイ拜見したら、全く以て終りまで讀む勇氣がなかつた小說に出會した。プロレタリア（と云ふ語はチト工合が惡いが）に文壇を志してゐる者が何百人ゐやう？ プロレタリアの着物を着てプロレタリアの生活をしてゐると云ふやうな外部的に見ず、「プロレタリア魂」を有つた人間のうちにだ。そんな雨夜の星のやうな滅多にない特殊な處から種を取つたものは、如何によく書けてゐてもそれは文壇を知つた人間だけにしか通じぬので、大衆びいきの僕にとつては三文の値打も無い。僕はそんな下らねものを出したり載せたりする本屋や雜誌社が潰れゝばいゝと思ふ。

◆

今日の所謂勞働文學では、迚もまだ積極的な方向へまで向つてゐなく、諸々な勞働者の表面生活の、單なる自然主義的表現さへもできてはゐないとさへ私は思ふ。增してやその內生活に深く喰入つて、革命的意想に役立つ處へは觸れかけても居らない。

實際りつぱな勞働藝術の批評は、同職者を措いて他にない。いや正確に云へば同職者と雖も或る程度きでよく批評し得るだけだ。働場で起こる色々な細かい心理は文學科卒業の文學士には迚も判らない。それでは批評家が働場へ行つて、一寸勞働の眞似事でもすれば判るかと云ふに、これまたさうは問屋で卸さなからう。

勞働小說は成可く勞働者の外的生活を通じて（何故なれば勞働者の全生活より他が重要且つ大だから）兄妹達の大勢が、成可くこれを讀み親んで腹へ入れ、力を肥すやうなものがいゝと思ふから。ブレーカーが飛んだ！ コントローラーから火が出た。電車は滅茶苦茶に走る……。きつと何處かへ衝突する。（これは二日の初夢だつた。最とくわしく言ひ度いが全部順を立てゝ言ふと僕のプロ文學論になつて了ふから止さう。）

虚無主義者と生の執着

（或る呆氣者の手記から）

一氏義良

△何といふパラドックスだらうか。彼は「虚無」を認めながら現實に執着するとは。

△「一切のイリユージョンの破れたぼくだ」と言ひたい彼だ。それでなほ「生」に對する執着の極めて強い彼なのだ

△どうせあと三十年か四十年しきや生きられない彼だ。——それからどうなる。何もかも皆、彼の世界から消えてなくなるのだ。たゞ「虚無」だけがそこにあるのだ。さう思ふ時ほど、彼にやるせない、いた〲しい心にならせるものはない。

△ある時は斯うもおもふ。生きてゐる間がみじかいのだから、その間はできるだけ充實して生きたいものだと。

△しかし次の瞬間にはもつと暗い心になる。どうせ三十年や四十年充實して生きたところでそれが何になる。——不死の藥を求めたつて得られるわけでもない、どんな偉業を遺したところでそれが自分にとつて何になることか。死んで行つたものはたゞそれだけだ。古代エジプトの、あの巨大な墓を遺した王でも、クレオパトラでも、キリストでもナポレオンでも、死んでしまつたらもうそれまでゝはかなつたか。

△彼の父が死んだ、五歳の少女が死んだ、母が死んだ。その度毎に彼は強いショックをうけた。そして死んだ彼等の「生」をおもんみた。が、それをどうするものぞ。個體の絕滅と同時に、彼等の世界は「虚無」になつてしまつたのだ

△彼も、——やがて同じ運命に行くだけだ。すべての假定の中で、これだけは事實だ。もがいたつて、悲しんだつて彼の死ぬることを誰れが何うしてくれようぞ。——そして死後は一切が「無」！　何といふいやなこと、何といふおそろしいことだらう。一切の現象が自分からなくなることを想像したゞけでも彼にはたまらないことだ。

△計ることのできない永劫のタイムとスペースの中の、たつた五六十年の小さい一個體だと思ふと、彼はどうでもいいやうな氣にもなる。

△生の力といひ、アムビションといひ、思索といひ、行動といひ、社會主義だといひ、革命だといひ、人類生活の理想の實現だといふ——そんなことが一體、彼の「生」にとつて何の關係があるだらうか？

△たゞ暗黒な「虚無」！　それだけが彼には殘るのだ。

* * *

△戀愛が何だ！　そんなものは種の保存の假面に過ぎないのだ。　　　　　　　だ。現實人生にとつてほんとうに行ふべきことは、從つてほんとうに愉快なことは、食ふこと飲むこと、　　　　　と。それだけだ。それだけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を「生」な事實として出發しない一切のものは虚僞だ少なくとも彼とは交渉がない。

△いはゆる藝術ほどばか〱しいものはない。藝術が一たいわれ〱に何物を與へようといふのだらう。理想か？「虚無主義」のエゴイストには「理想」のイリユージヨンなどとつくに消えてゐる。向上か？　人類が、少なくとも彼が向上して何にならうといふのだらう？　夢か？　夢の藝術ならもう澤山だ。キリスト以來、人間はあまりにばかげた夢を澤山見せられ過ぎて困つてゐるのだ。

△藝術なんぞ、そこいらのブルジヨアにくれてしまつて、彼は、生きてゐる間、せめて踊らう、うたはうと思つた骸骨と手を取りあつて。髑髏をたゝいて。生きてゐるたのしさを、死んで行く苦しさを。

＊　＊　＊　＊

△待てよ。現在の彼には、うたつたり、踊つたりする餘裕すら充分に與へられてゐないのではないか。

△ほんとは、できるだけのエゴイストになつて、せめて五六十年の一生だけでも、踊りぬいて歌ひぬいて、あらゆる女と世の助をやつて、食べたいものを食べ、見たいものを見、行きたいところへ行つて、王侯の生活をして死にたいのだ。

△ところが實際にはどうだ。よごれ疊の上の、貧弱な煎餅布團にくるまつて夜があける。まだくらい中から、四人のがきどもが泣くわめくうたふ、さかんなコーラスを始める

△それからの一日、どこに彼の生のよろこびがあるものか？

△かうしてあらゆるものが、彼の「生」を裏切りつゝ、歌はず踊らず、[illegible]、ひね澤庵でお茶漬をかき込んで「死」に急ぐのだ。

△彼の生活なんぞ、いや、おしならべての現代人の生活なんぞ、他のあらゆる生物におとつてゐるのは事實だ。——彼等は勝手な時に花を開き、歌をうたふ、欲しくなれば食を求め、眠くなれば眠る。彼等の一生は絶對に自由だ。人間だけはさうぢやない。不自由と不公平。

△[illegible]。人の前で、おならを一つすら、大きな音をさせて出さないではないか。

△子供をつくりたくなくても子供は殖える。殖えた子供もその親も苦しまなくちやならない。一個の蜜柑を六つに分けなくてはならない彼の境遇だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△彼には、踊ることも、歌ふことも許されてゐないのだ。さうして「虚無」に呑み込まれてしまはなくてはならぬとは、彼にはとてもたへられないことだ。

* * * *

△だから虚無主義者は革命家になるのだ。

△せめて革命家にでもなるより仕方がないのだ。

△彼の革命は人類愛のためぢやない。將來の人類のためぢやない。彼れが踊ること、歌ふこと、——自己表現その物の形式が革命の形をとるだけだ。

△彼は虚無主義者だ。だから「虚無」はいやだ、いとはしい。せめて此の世だけでゝも充實して生きたい。だから現實執着者だ。現實のための現實に生きようとするのだ。——ところが彼の現實は「虚無」に隣りしたいやなところだ——不自由、不公平、不自然——だから彼は、髑髏と骸骨を友として、「[redacted]

* * * *

△ちよつと待て。こゝまで行くと彼の歌、踊、——創作が一つの問題だ。

△ほんとは彼には此の點が不徹底だ。なぜ、エゴイストたる彼が、[redacted]なんかを考へなくてはならぬのか。虚無主義者が將來の世界のことを思はなくてはならぬのか。[redacted]彼に取つての歌であり、踊であり、創作であるのだか？

△いや、さうぢやない。結局の事實はこれだけだ——恐らく。——明白にでも、われ〳〵の世の中が——自由にうたはれ、踊られる世の中が、實現してほしい。それを實現するものはやつぱりわれ〳〵自身だ。他人がどうしてくれるものぞ。だから、そしてそれだけが、ほんとに彼のなくてはならぬ現在の仕事であり得るわけなのだ。だから、[redacted]彼にとつての踊であり、歌であり、創作であるわけだ。——その外に彼の「生」はない筈だ。

△虚無主義者の現實執着は、決してパラドックスではないあたまりへのことだ。

——一、一一——

唯物論と神秘主義

武藤直治

一

唯物論或ひは科學的形而上學が行き詰つて硬化して終ふと同時に、舊めかしい神秘主義（ミステレズム）（或ひは中世主義）の宗教思想や、唯心主義や超絶觀念主義の乘ずべき間隙はつくられた。かれらは唯物論や科學的形而上學の不備と缺陷につけ込んで、科學と唯物論の不成立とその非眞理であることをば主張する。然して、事新しく舊き『神』の存在を叫ぶプラトーン觀念論の再建を絶叫する。ありとあらゆる種類の唯心論（スピリテユアリズム）、觀念論を怒號する。世にこれほど時代錯誤の迷妄はないのだ。

唯物論や科學的形而上學にいかほどの缺陷があり、その窮極的價値を信頼され得ぬとしても、そのことが一轉して舊めかしい超絶觀念主義や神秘主義の宗教思想（又は中世主義の宗教思想）をしかもそのまゝに信仰してよいといふ理由にはなり得ないのだ。

所謂、自然科學の知識が現今に於いては餘りにまだ不備で幼稚であるとしても、宇宙の本體、實在界の百萬分の一をも明確に知覺することが可能でないにしても、その不可知いな未知（unknown）なる宇宙の本體、實在界に向つて直ちにそこに神の存在と神の無限の攝理の力を豫定せねばならぬ理由はあらぬ。

神は死んだ！ いな、神はもと〳〵存在しなかつたのだ たゞ人のみが嘗ては神を創造し、それを信仰したところの歴史的事實があるばかりだ。

『隨つて神がロゴス即ち活動する神として久遠に存在するには、どうしてもその神の活動をうける所の現實的要素が久遠に存在しなくてはならぬ。即ち神の活動の受體となり神の統一の材料となる世界の存在を豫想しなくてはならぬ そしてこの世界の派生的被造的統一は世界の中心であると共に神の環境である。即ち人類である。あらゆる實在は活動を豫想する。活動はその現實の對象を豫想する。故に神の活動に基づける神の實在もその活動を感受する主觀即ち人を豫想する。この人は神の活動が遠久なるによつて久遠である。』（ソロヰヨフ『神人論』第八章）これを我々の理論から云へば、神の存在を信ずる人間あり、神の活動を感受する主體あるが故にこそ神はあるのだ信ずるもの・感受

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

する者なきところには神はあり得ぬのだ。（神は他の動植物に存在せず、人類にのみ存在するとは又同じ意味を云ひ現はしたにすぎぬ。）故に、我々が信ぜず、感受することなき現今神はすでに無いのだ。

『太始にロゴスあり、ロゴスは神と共にあり、ロゴスは神なり』（ヨハネ傳）とはまた、人の理性即ちロゴスを立てゝ神となしたことを意味する。我々はロゴスをすでに神とはよばない。曰く、プロレタリア意識、又はプロレタリア的自覺、又はプロレツトカルト（無產階級文化）の精神とは我々の新しきロゴス（理性）に對して我々の名づけたところのものに外ならない。

二

宗教が嘗て人間生活の生活的又は社會的要求の象徵としていな具象化して出來たものであるのは歷史的に明白である。そしてそれ故にこそ宗教の教義、又は經典、信仰課條はいまもつて我々にある程度の緊切な生活的意味を齎らしてゐることも事實だ。然し、それかと云つて、あるがまゝの宗教をあるがまゝにうけ入るれべき根據とはなり得ぬ。『神々』又は『唯一の父なる神』とは全人類の創造した寓意、比喩の中でも最とも眞實に近い、もつとも美しき、然も最とも生活的意味及び社會的意味をもてる寓意であり、比喩であるらしい。然し、それは眞理ではあらぬ。いな嘗ては眞理と同じものであり得た。然し眞理はつゐに人類生活の歷史的變遷と共に、その眞理自らも變遷し進化する。舊き眞理は新しき眞理の中に攝り入れられ、更らに向上したより新しき眞理の創造が準備される。

たゞ『神』の觀念をみても、舊約の怒の神が、新約の愛の神の中に如何に完全にとり入れられてゐるか。より高きより調和あり、より合理的なる新しき神を創造してゐるか（ダンテの神曲を見よ、その地獄と煉獄の思想がいかに復讐と怒りの神の性質をよりよくとり入れたものであることかを。）

然し唯一の父なる愛の神も、ルネサンス以後の近代生活には、その生活を、支配する力を、權威を喪なつた。そこで神の死は必然に來た。

十九世紀末葉の唯物論、科學的形而上學はやがて、自然科學（殊に物理學生物學などの）驚異すべき發見と進步とによつて、自らそのシステムを一新せねばならなくなつたそして、破壞と過渡の時代は來た。舊きその唯物論、科學的形而上學は、自爆して果てたのちの空しい廢墟が冷たく

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蒼白い近代的幻滅の月光をあびつゝ、寂然と新しきプロレタリア文化の黎明をまちのぞむでゐるばかりだ。そこには理論物理學や、生物學、或ひは等々……の人間と宇宙に對する局部的認識のみの知識の不完全な素材のまゝの堆積があるばかりだ。

此の暗夜の廢墟の中に、神秘主義や中世主義的宗教思想の、舊めかしい精靈どもが、燐光のきらめく屍衣をまとふて徘徊するのだ。幽靈を警戒せよ。神の幽靈と神秘の靈女の出現を警戒せよ。

三

かの舊き唯物論、科學的形而上學がそれ自身の完全と絶對とへの信仰を强要したとき、それは當然自滅をまぬがれることは出來なかつた。唯物論と科學的形而上學が全宇宙と全人生とを解決し得ると妄想したならばそれは餘りに越權である。眞理の逆用であつた。故に唯物論、科學的形而上學は自滅し解體せずには居られなかつたのだ。

ブルジョア階級の生活不安と、彼れらがたへず凶光の豫感におびへるの餘り、舊き型の形而上學と神秘的宗教思想の權威に再たびすがらうとするの餘り、彼れらは唯物論（科學的形而上學）の不備と缺陷を指摘することによつて、科學そのものゝ意義と價値にさへ不信をいだき、神秘主義思想や中世的形而上學の復活を叫ぶ。かれら時代逆行の偶像再建者よ！

四

プロレタリアが將來かれらの宗教又は『神』への信仰をもつか否かについて私はこゝにはまだ餘り云ふべく用意が出來てゐない。

たゞ舊めかしい一切の宗教思想、神秘主義（又は中世主義）及び超絶的觀念論、又はその形而上學等に對してその存在をば拒否するばかりだ。プロレタリアはそれらのすべてのうちに、仇敵のたましいと過去の時代の傳統精神を痛感するのだ。故に、われらプロレタリアはわれらがプロレタリアとしての意識、自覺の上に立つてもつて、それら舊哲學舊宗教のすべてを批判し、革命してプロレタリア文化の創造へ急がねばならぬ。（完）

移轉

種蒔き社

東京市外千駄ケ谷町穩田一〇一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西伯利亞の一隅より

ヨシフ、ウラジシルロフ

私は西伯利を彷徨した。コスモポリタニックな流浪者だ家も無けりや、金もない。

寢たけりや、どこにでもねる、支那人の家でも朝鮮人の小屋でも、露西亞人のペーチカの上でも。

喰ひたけりや、働く、併し日本の樣に働けないことはない。勞働するがしやすい。

金がなくなりや一つ、戸を叩けば入口で歡待し、露西亞人はよく云ふ、…………………………………………らう。併し、日本人みたい利己的では、果して、共産主義が實行できるだらうかと。愚な話だが、俺にも否と答へられない。餘りに日本人は利己主義の結晶だらう。

…して呉れて、どんなイズムでも、それも Open-hearted に Open-handed にだ、けち〳〵した奴はない。

日本人は惡性の猶太人だ、金を持たない奴は犬にでも喰れて死ねと云ふ態度だ、人が死に掛つて路傍に轉つてゐても、外方向いて通ると云ふ奴だ。實際度し難い。

眞意の籠つた、一杯の水は百年經つた、ボルドウよりも味い。

惡意の手でくまれた水は、毒唖汁と變る。

之れは日本人許りだ。日本人は嘘付きだ。嘘を云つて人の物を掻拂へば成功して、人に褒められる、偉人だ、成功者だ、實に豪らいもんだ。

…………………………………………

[redacted]

たとひ同胞でも殺して差支ない。殺して了へ、鏖殺しろと來る。これぢや、命の替りを持たぬ者はたまらぬ、第一俺がたまらぬ。

[redacted]

ところが面白い、其正義でない、動物的な邪鬼的な人間が實際あつて見ると、同胞と稱して、戰爭に無理につれて行つて、資本主義擁護の楯にする日本人よりも寛大で、親切、思やりや深くて情深いから妙だ。

こんな話がある、ロシアの話だ、無論作り話しだが面白いから序に書く。

昔し、或處に、一人の若者があつた、顏形身振から見ても、颯爽たる美男子だ、眉目清秀などと云ふエピセットの付けられる青年だつた。

或時當時のモスコビアを發つて遠く、世界遍歷の旅に上つた。

ところが途中で大きな森をとして、彼方の廣々とした、ステップに來た、其處にはライ麥やら大麥やらが、生へてゐて、黃金の波を打つてゐた。

四邊の山々は眞白い嶺を夕日輝して、金を照つてゐた。

青年の旅人は今夜はどこぞ、この邊に宿を取らうと思つい、村らしい小屋の群つた方へ這つて行つた。ところが驚いた。村人は鼻がなくて、目が一つだ、あつと行つて、魂消げたがよく、注意して見ると皆、同樣に鼻がなく、目が一つだ。驚いて逃げださうとすると、相手は奇妙な叫聲を擧げて、追駈て來る、遂に捉へられた。皆、異口同音に此奴は不思議だ、眼が二つあつて、顏の眞中が高くなつてゐる、惜に怪物だから、動物園にでも入れて見せようと叫びだした。

青年の旅人は夢ではないかと疑ひ且つ懼れたが、事實は事實だ、青年は其時始めて考へた、誤つた考に支配せられてゐる者はほんとうに正しい者の認識することが出來ず、飽迄自己を正しとして、他を非なりとするものだと。

斯う云ふ童話は、單に童話ではなく實際ある。それが、文明を誇り世界に雄飛して五大强國の一つに列し、東洋の覇權を握つてゐるとふんぞりかへつて威張つてゐる日本にあるのだから甚だ怪訝の念に堪へぬ。

實に馬鹿げた事だ、まさかと云ふ人があつたら、實地に當つて御覧、實物を御覧に入れれば、早わかりがする。暫く見てゐて、くれ給へ。併し眞面目な問題だから其積でゐて呉れ。

時は西暦一千九百十九年の六月三日だ。忠君愛國の心に滿みた、日本軍隊は隊伍堂々と祖國の仇夷狄の鬼パルチザンを討伐すべく日本領ニコライエフスク指して押寄せた。勇ましくも勇しかつた。勇々、堂々怒髮天を衝く慨があつてキジ湖を鐵舟で渡つた一隊と、テヌイラス砲臺（俗稱ナチマラフ）プロンゲ砲臺を陥れた軍隊、マゴ、マリンスクスクの匪徒？　を殲滅剿封して、[redacted]た。

[redacted]領事館や憲兵隊に、嘆願書を山許山積しても無駄な事だ嘆願なぞには耳もかさぬ、嘆願するだけ野暮だ、とうの昔に首になつてゐる、首になるのも月給取が首になるのと違つて生命がないのだから、どうもやりきれない。

俺はコスモポリタンだから波蘭人でもフインランド人でも、ゲオルギア人だらうが匈牙人だらうが友達としてつきあつた。

彼等の仲間も矢張パルチザンとして殺された。何故かと云ふと日本人以外は皆パルチザンだから。また、日本人は江連の様な事はするがパルチザンの様な殘虐な眞似をせぬから。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

併し、非道い、俺はよく、外國人が默つてゐると思ふ、國際問題だ、併し軍閥は根こそげ證據を埋滅したものだ。俺は外國人の氣のよいのにあきれた。

[redacted]、其上寄附金を募つて五丈もある記念碑を建てたりする。(正氣でゐるのかおい確つかりしろ、尼港はソヴィエット露國の土地で日本の土地でないぞ)

或る波蘭人日本人は市街、それも二万人も居た市街を壞したのはパルチザンの仕事だと云ひ觸らしてゐるが實際は日本の飛行機から落した爆彈か、大砲でこはれたのだ、彼家だつて、壞れ方を見れば判るが、上から壞れてゐるのではないかと云つたことがある。

日本の軍閥が自國に不利な事はだまつて、反つて、反對宣傳をやる。仲々、コントラ、プロパガンダが巧い。

八月仲頃勞農正規軍の本部から、一葉のチズベスチアが屆いた。それにはマリンスクの北方の地點にて、赤軍首領(正規軍の)アンドレーフは革命裁判所を開いて、トリヤピーチン以上十五の者を審判して、此銃に處したと報じてゐた。此は無論人民に配布された新聞樣のものだから、日本の官憲の手に這入つたが、日本の官憲は此を單に宣傳だからと、云つて、反對宣傳をして握り潰して國民に知らせなかつた。洩れまいと思つてゐたところが逸早く亞米利加の新聞記者の手に入り、亞米利加の新聞に發表せられた亞米利加の人士の間に物議を釀した。

[redacted]

たとひ露國人が亂暴で殘虐で非道でも江連の樣な者が審判されたとして。既に事が濟んだのに、アントノーフの言葉ぢやないが對島を占領する樣なことはあるまい。

日本人位インターナショナルな國民はない。自分が一番豪くて、正しくて、善い文句はないのだ。

露西亞の昔話は此奇態な日本では眞理として通る。露西亞の童話作者も地下嘸苦笑することだらう。

(十二月十九日夜)

批評

無産階級運動のＡＢＣ（解放）

昨年の七月山川均氏が始めて「前衛」に於て「無産階級運動の方向轉換」を主張された時に、僕がいつたことも今いはふうとすることには全然變りがない。その意味は、あれを讀まれなかつた人は、是非こんどの「解放」を讀んでもらひたいことである。不幸「前衛」の七月號の時には、あまりに抹殺になつた個所が多くて、意味が徹底してなかつたかも知れない。が、こん度は完全にあつさり書かれてゐる。井箆節三氏を問題にしたくない人は一、二、三節を讀まれるだけでも結構である。（三八頁から四二頁）。讀まるることによつて、山川均氏の主張はいかに「曲れ右」の說でないことがわかるであらう。山川氏の說――それは氏自身が、案出したものではなくて、可なり多くの人々の言はんとしたところを發言したものであるといふ。――は「右」のオポルチュニズムに對抗すると同時に、「左」のイノポルチュニズムに對抗したところの戰術である。僕は氏の主張を「無産階級の運動は、先づ大衆に先つて階級的に目醒めた少數者の運動から起つて來る」といふ階級的に自覺したミノリテの運動を主眼とする共産主義の戰術としての展開と見る。第三インターナショナルの戰術が、昨年と一昨年と異つてゐたと同樣に、あれを戰術としての轉換であると見る。

しかるに、あの說は相當の誤解を受けてゐるやうであるそれは「行きあたりばつたり主義者」と、これからの運動は「戰術」をもつて一つの方向としやうとする者の異つた見解かも知れぬが、もう一つ誤解を招いだ點はよく讀んでゐないことにも原因する。それが大きい。

結果、井箆節三氏も、わらぢでアムステルダムに行からとする鈴木文治氏も（正月三日の「國民」）そしてまた殘念ながら、麻生久氏（年末の「朝日」）の見方も兄たりがたく弟がたしといつたところだ。前二者は未だしも、いはゆる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

指導者の地位にある麻生久氏は方向轉換を論ずるのか、山川氏個人を論ずるのかあの議論ぶりでは、われわれいはゆる實際運動家でない者の眼から見て、もう少し見方があるだらうと思はせるのに、勇敢なる麻生氏如き社會主義に永い間足を入れてゐる人の言として、氏が常に同情の涙を禁ずることの出來ない氏の統率の下にある勞働者諸君はどう思ふだらうか、それを知りたい位である。

僕は、しかし麻生氏が「日日」紙上の「濁流を泳ぐ者」の二日目に於て共産主義者であるといふやうなことを宣言しなかつたら、默まつたらう。が、麻生久氏を氏自身の宣言によつてコムミユニストとして見做さねばならぬ以上、あれはむしろ私憤が含まれてゐそうにまでも思はれる議論のやうでならなかつたことをいひたい。氏は愛す可き感情家である。氏は危險なる感情家である。が、それよりも尙ほ危險であることは戰術を考究しやうとしない先驅者の指導である。(小牧)

●マルチネの『夜』上演

昨年十月同人創作號に譯載したマルチネの戲曲『夜』は昨冬ソビエツトロシアの革命劇場に上演された。

啓明會運動

——『文化運動』(新年條)——

○

最近石田望天氏經營の『文化運動』の調子が變に變つてきたものだと、よく注意してみると今は島中雄三氏や下中彌三郎氏達の日本敎員組合啓明會の機關誌の如きものになつて編輯人も下中氏に變つてゐて、又內容も例の『愛』が可成り減つてゐる。で新年號は殆んど皆讀んでしまつた。外の立派な雜誌——中央公論、解放、改造 etc——は廻覽雜誌で家內揃つて見るので仲々僕の手許などには廻つてこない『文化運動』だけは每月オヤジの處へ送つてくれてゐるので讀むことにしてゐる。新年號は最近の傑作だらう。中にも島中氏の『現代社會思想と思想家』や下中氏の『唯物史觀と革命、自然進化と個人的努力』や田中惣五郎氏の『宗敎漫語』等はとりどりに面白いものだと思つた。

○

さて日本敎員組合啓明會なるものが、何時頃から出來たものか又何人が創立したものかは僕は少しも知らない。(恐

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らく創立した人は下中氏や島中氏達だらうと推測はしてゐるが）併し會の趣旨や宣言や會規等は『文化運動』の扉に載つてゐるので直ぐ判る。が勿論僕はそんな様なもので啓明會がすつかり判つた等と野暮は云はない。一體趣旨とか宣言とか會規の様なものは虚僞や誤魔化し――悪い意味ではなくして或る壓迫上已むを得ない場合を云ふ――が多いものだ。例へば會規の第二條には

二、本會は會員相互の砥礪によりて、職分的自覺を高潮して教育會を内部的自發的に革新し、教育の力によりて人類社會を根本的に改造するを以て目的とす。

とあるのを見る。これは取り様によつてはどうでも取れる條項なのだからどうでもいい。がたゞ唯一つ明白なことはこの啓明會は勞働組合の様に會員の經濟的團結（變な言ひ廻しだが）でなくて、ある可なり自覺した教員達の一は相互の啓發のため、他は以て一般に教育界を『内部的自發的』に革新する意氣込みであらう。それに加ふるに只に『教育界』許りでなく『人類社會』をも根本的に改造しやうとするのであるらしい。で繰り返して云ふが本會は一種の勞働組合（佛國にある様な）ではないのだ。『然るに今宣言を見ると云ふと、第一に

吾等は眞人間の生活を基調とする社會生活の實現を理想とす。
故に公正なる人間一切の要求を肯定し公正なる凡ての社會的存在を尊重す。

とある。これこそ『ある壓迫上已むを得ない』ための名文だと思ふが、とにかく『公正なる人間一切の要求を肯定』してゐるのである。しかし諸君、これは『宣言』であつて『會規』ではない――假りに今一啓明會員が（現在教職にあるもの）自己の『職分的自覺』によつて『其筋』の壓迫を受けたために免職されたとする。この場合、啓明會としては當然『公正なる人間一切の要求を肯定』してその壓迫したもの、及び學校、延いては政府及び教育界と鬪はねばならない。況して啓明會の重鎭たる島中氏の如きは立派なボルシエイストである以上その筋の壓迫を受ける様なをは即ち『聯合的自覺』に外ならないのであるからその一教員に向つて『それは君が悪いんだ』と云はれなくなるだらう。こう云つた處で何も眞個にそんな事件があつたといふのではない。そう云ふ事件又はそれに似た様なことが今後會員間に起きれば會はどうするだらうと僕が他人の疝氣を病んだ迄の話だ。こう云ふのは實は僕はならうことならこの啓明會も今度出來た『出版従業員組合』の様な勞働組合にな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて貰ひたいものだ（事實上出來ないかもしれないが）『文化』組合は如何に看板でももういい加減厭氣がさして來ることを云ひたいばつかりなのだ。最う一つ難癖をつけるならば宣言第二の「吾等は日本人なり。日本民族としての純眞を發揮し公正偉大なる國本に生きんとす。……」だけは削除して貰ひたいものだ。もつと他に文句があり相なものだ。

○

教育の大切なことは今更云はなくとも判り切つた話だ。初等教育を受ける兒童の大部分はプロレタリアと貧農の子達だ。彼等に教へる教員諸君の責任も亦重大であると云はねばならない。今日教育者として何が『天職』でなければならないかは眞個に今の社會組織を見る明のある人には夙くの昔に定つてゐることだ。『人類愛』でもよし、『眞人間の生活を基調とする社會生活の實現』でよし何でもいいが要するに次の世の主たるべきはプロレタリアと貧農の子達であることを教員諸君の頭にしつかり入れて置きさへすればいいのだ。

世には教育會なるものが可成りある。こんなものは既にどうでもいいものになつてゐる。吾が啓明會だけは少くとも今までとは多少違つてゐやう。その意味で僕は興味を以て啓明會の將來を見て行きたいと思ふ。本年度の計畫となつてゐる農民自由大學や村落中學の普及運動の成功を祈つてゐる。加ふるに啓明會の指導者の中には島中氏の樣な純然たるボルシエヴイストがゐるから心強い。今後もどしどしボルシエヴイストを吸收する樣にならんことを僕は望んで止まない。同時に『教育』のためにボルシエヴイストとも進んでどし／＼啓明會に入會する義務あると思ふ。プロレツトカルトについては未だ『文化運動』には發表されてない。

○

僕は二度も島中氏のボルシエヴイストたることを引き合ひに出したが、島中氏は『文化運動』に『平日の對話』を載せて　Aは客Bは僕と此頃流行の形式を以て自己のボルなることを驚くべき程明瞭に表してゐる。同時に日本にどうボルシエヴイズムをアツプライするかまで他雜誌――種蒔く人等では眞先きに――では早速沫殺され相なことを書いてゐる。試みに第十五頁には『……無產階級解放の最後の目的を達するためには、ボルシエヴイズムの執つてゐる戰術が最善の、そして恐らくは唯一のものだと僕は信ずるのだとか、第十二頁には『不眞面目だからこそアナキスト

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なのさとか、第十六頁には僕はだからボルシエヴイキだと云ひきつていいか何うかは知らないが、少くともレーニンの主義には全部的に同感するのだ』とか云つてゐる。更に日本に應用する件になると。第十六頁には

A——ボルシエヴイキの特徴は無產階級獨裁とソビエツト組織だと思ふが、日本にソビエツト組織が行はれるかどうか。

B——僕は、行はれないことはないと思ふがね。しかしそれは國情によつて違ふんだから今のところ問題ぢやない日本には日本流の組織が行はれていいのだ。それよりも保守的反動派やブルジョア、アナキストの反對するのは所謂獨裁といふことだらう。しかしそんなことは、少し思慮あるものには問題にも何にもならない。問題にして何か爲にしやうとする奴だけの問題だ。

の如きは惜しいところで判らなくしたと云つて仲々はつきりしたことを云つてゐるので僕は感心した。その意氣で大いにやつて貰ひたい。啓明會の組織綱領は島中氏一人でどうにもなるまいが、せめて『文化運動』誌上には度々ボルの氣焰でも聞かしてくれれば啓明會も好い仕事を見付けたと云ふものだ。(日野樹)

來るべき白兵戰の前に

——中西伊之助氏其他——

最近の朝日紙上で、『階級戰の擲彈』なるものを發表した中西伊之助氏の態度に就ては、可なり方々で非難がある。餘りに同氏は潔僻すぎて偏狹で、しかも餘りに獨善的でありすぎる……と言ふ非難である。しかし誰もが表面言ひ合はせたやうに沈默してゐる。一人も同氏に忠言あるひは食つてかゝらうとして居ない。かげ口である。で、そんなかげ口はみつともない。一つ僕が同氏に公然聞きたゞさう——そこで元來馬鹿正直でお調子ものの僕が遂々憎まれ役を受持つのである。

中西氏は言つた。『まだ日本のプロレタリア文學なんて言つてみたところで、てんで問題になつてゐないことが、はつきりわかる。いつたいプロレタリアがどうのかうのと言つてゐる連中が、プロレタリアと言ふものが分つてゐない』『第一、本年中のどの作品を見たつて、階級意識のはつきりした、戰鬪精神に富んだ、新興プロレタリアらしい氣分の漂つたものを誰が書いてゐる』と、

なるほど同氏が言はうとしてゐる心意は十分に呑み込め

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。しかしながらだ。簡單に言つて今の時代は吾々プロレタリア作家の間で、仲間をいち／＼検討してゐる時ではない。猫も杓子も團結してたゞ一つなる敵ブルヂョアへ肉迫してゆく、もつとも白熱の時代である。それを忘れてからした輕々しい言ひ方を、それが特に新興プロレタリア文藝運動の闘士として、また勞働運動社會運動の共同戰線に立てる僕等の先進者として、相當尊敬を集めてゐる『中西伊之助氏』と云ふ男が、假りにも口走ることは餘りに無暴である。これでは全く、『無産階級解放運動に於ける共同戰線の、規律を亂す我儘者』もつとひどく形容するなら『ある意味からの裏切り者』とかりに言はれても仕方はない。

事實同氏の長編小説『赫土に芽ぐむもの』や、『死刑囚とその裁判長』等はあるひは純正プロレタリア文學として完全なものであるかも知れないが（不幸にして僕はまだそのどちらをも讀まない）、また、本年中に發表せられた他の作品のどれを見たつて、純粹なプロレタリアの文學らしいものは無かつたかも知れないが、なにも今年でプロレタリア文學作品なるものが、最後の淸算をせられなければならないものでもあるまいし、殊に今はブルヂョアかプロレタリアかでなくして、ブルヂョアに反抗する者がプロレタリアでなければならない。それが眞正であるべき時代に、不逞鮮人を描かなければ純粹のプロ作品とは言ひ方では、片腹痛い次第である。否不逞鮮人も大にいゝ。しかしお互が喧嘩をしてゐる間に老猾なブルヂョア作家は、今や強烈な反動攻撃を計劃してゐる。貴族と資本家はより安全な地帶で莞々高見の見物をしやうとしてゐる。そこの道理が同氏位なものの解つた人に解らぬと言ふのは可笑しい。あれでは全く排斥していゝ個人主義者の中西氏になる。『階級戰の擲彈』は味方へ向けての擲彈か？それを考へて頂きたい。

あせらずともいゝ。今一二年の間である。その間お互ひもつと共同戰線を、維持することにつとめなければばう、そである。万事はその後だ。眞のプロか、あるひはブルの坊ちやんかは、その時自然に分明する。なにも今から同氏の檢討をまたなくとも、鍍金はそのうちに剝落するから、今は少しの不平と不滿は互ひにこらへて、共同戰線に立つべきだ。敵は一つである。それを十分靜かに考へてみるとだ。

以上、中西氏と、餘計なことも知れないが、同氏とやゝもすれど同じやうな態度を取つた藤井眞澄氏（同氏の『民衆藝術の立場から見た本年の單行本』參照）等の反省を促すため、喧嘩はしないが一言する。（淳三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「脫船以後」其他

（新興文學新年號總評）

何といつても新興プロレタリア作家と云はれてゐる人達のなかでは、前田河廣一郎氏が一番しつかりしてゐる。前田河氏の『三等船客』のなかで、これは誰でも云ふことであるが、「マドロスの群」に感心した僕は、今度の「脫船以後」にも感心した。多分（と云ふとを許して欲しい）大正十一年度から大正十二年の文壇に引續いて仕事をして行ける人は、そして其作品の廣さと深かさを增して行ける人は、この前田河氏一人きりのやうな氣がする。「脫船以後」の前半、飢餓に追はれながら森の中を彷徨するあたりの描寫から、公園へ出て田邊といふ男に救はれるまでの、心理描寫はさすがにウマイものだ。冴えた腕を見せてゐる、と云つても、前田河氏の腕の冴えは決して其處らの技巧一點張りの小手先きの器用ではなく、この技巧の奥に、「前田河廣一郞」といふ、あのデツプリした巨軀の重壓を感ぜさせる、何となくドツシリした感銘を讀者に與へる技巧だ。殊に「ジス、ウオター、ホールス」と訊ねかへしながらも、それをグビグビと腹いつぱい飮むでから、少し歩いて往來で嘔吐を吐く、この前後の描寫には、文字の上には實感が煮染み出てゐる。『ウマイなあ』と思ひながら讀んで行くと、後半になつて次第に前田河氏の持前の癖が露骨になつてくるので、今度は『オヤツ』と思ふ。前田河の癖！　それは文字の上のアンビシヤスなことだ、構圖の上でポリシイが露骨に出てゐることだ。それが、何時も作品の結末を、探偵小說めかしたり、冒險談の氣分で終らせたりする。前田河氏の小說は藝術家と政治家との共同著作のやうに思はせるのは、何故だらうマドロスの群の結末のワン、アト、エ、タイムの程度だと、さすがにこの人でなくては！　と思はせるだけの壓力を、相手（讀者）の胸にたたきこむ。ところがこの『脫船以後』になると、「勇氣凛然たる前田河廣一郞」のヒロイツクな面影は、誤りなく知ることができるが、折角前半の持つてゐた偉ぐれた効果を消して終ふ。ここでは藝術家前田河廣一郞が政治家前田河廣一郞の爲めに、些か受太刀になつた形だと思ふ。

だが、そんな惡口は云ふものの、新興文壇に擡頭した前田河氏の位置は確かなものだ。殊に自然描寫の短かい文句のなかにも、その生命を感ぜさすものがある。これは確かにこの人の長年の放浪生活の影響であるに違ひない。現在

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の所謂プロレタリア作家を以て自任してゐる、一團の作家群のなかで、篩にかけられた時に生殘る唯二人の作家がある。その一人はこの前田河廣一郎、他の一人は恐らく宮島資夫氏であらうと思ふ。

『脫船以後』に就て餘り長く喋り過ぎたが、正直のところ『脫船以後』の作以外は、もう書いても書かなくてもいいやうな氣がするのだ。新井紀一氏の『お祭り』こそは、ホントに『お祭り』の餘興であるに過ぎない。スケッチにしてもつまらな過ぎる。作者はこんなものの何處に執着を持つて書いたのだらう。仲間のものが讀めば『ハハアあれか……』と思つて熱心に讀むかも知れないが、赤の他人が讀んでは、何だか愚にもつかない哲學めいた事や主義者めいた事を、考へたり話あつたりしてゐる、それも仲間の樂屋落をお喋りしたりしてゐる、ウスのろな若者二人が眼前に浮んで來るだけだ。一體、プロレタリア作家？ 新井氏の作は、どうも薄ぼんやりとして灰色で、精神虛脫者のやうで、勞働階級の味方のやうでもあり、資本家の御用藝術の作製家のやうでもあり、何が何だか譯が判らん。僕の頭の惡いからかも知れぬけれど、モ少しハッキリして貰へないものかね。いくら勞働の體驗を振舞はしても、全勞働階級的な意識がハッキリしない限り、いくら「貴重なるその體驗」を長々と述べ立てやうと、勞働階級の解放にはならない。現在、僕の周圍にも少しばかりの純勞働者がゐるか、勞働文學者新井紀一の評判は夥しく惡るい。『だからプロレタリア文學者なん名乘る奴は、勞働者上りの屑物だ』とさへ、僕た公然と云ふ者さへ出て來た。『お祭り』のなかの主人公が、「人間のする仕事なんて、どうせお祭り騷ぎさ」とヲツに高くスマしてゐるが、それは「人間の仕事」がお祭り騷ざではなくて、「新井紀一といふ人間の仕事」がお祭り騷ぎに過ぎないのだらう。

だからこそ、「勞働者上りの文學者は、どうせ勞働階級の屑ですからね」といふやうな、悲慘な語を浴せられるやうになる。勞働文學者？ プロレタリア作家？新井紀一氏のい、勉强を希望する次第である。

藤井眞澄氏の『モヒ中毒患者』。僕は芝居のことはよく知らない。然し僕は藤井氏の作には常に敬意を奏してゐる。といふよりは藤井氏の劇作上の精神に、といつた方がハッキリする。この頃プロレタリア劇作家だとか、社會主義劇作家だとか、表現主義作家だとか自稱して、苟の子のやうにウヨウヨとセンチメンタルなまたはデカタンテイズムた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

へろへろ作家が、吾も吾もと芝居なるものを書くが、そして勞働階級の自覺者を以て任じたり、革命家を氣取つたりしたりしてゐるが……何のこつたい、汝達は一寸も腰が上らんぢやないか。そのなかで、唯一人藤井眞澄氏だけが腰をあげてゐる。それは藤井眞澄の劇作は世間樣の芝居通の先生方の批評によると、甚だマヅイのださうだ。然し僕には芝居がイタにつくとかつかぬとか、カマボコの製造法見たやうなことは判らんが、唯、藤井眞澄の革命的精神、その精神から生れた革命藝術、階級意識の藝術だけは判る。如何にネタにへたばりついてゐてウマからうと、革命精神のぬけた齒ぬけ老人のやうな作品は、僕は眞平御免を蒙る

そこで改めて藤井眞澄と藝井眞澄の藝術とに僕は敬意を表しては置くが、一言だけ苦言を呈する。それは何うも藤井氏の境地が現在のままで固つて終ひはしないか、と云ふ心配である。現代のままで、師匠の中村吉藏先生の社會劇に少しばかり味を變へて見せたままで終つたら、それこそ藤井眞澄の生命がなくなるといふものだ。しかし、かうは考えながらも、藤井氏のどの作を見ても「まだ習作だな」と何となく思はせる所に、藤井眞澄の未來の强さがある。この僕のつまらぬ心配が、一片の老婆心であつてくれ！と氏のために祈る次第である。（近く氏の脚本集が自然社から出るさうだから、詳しいことはその上で言はう）。

「さてどん尻にひけへしは」と尻でもまくつて見せさうなのが、プロレタリア作家の一飛將井東憲氏の處女脚本「火尾の婆物語」である。

さすがは才人伊東憲氏だけあつて、處女作とも思はれね迄にウマイものだ。感心して讀んで行つたら、オツトどつこい終りの方で漂浪者が顏を出して、滅茶滅茶に芝居を打こはして終つた所は、やはり、井東憲氏である。井東氏は最初は丹念にまた溫和しく、ヒトツいい芝居を書いてやらうと世間並に考えて書いてゐるうちに、井東氏持前のアナキステイツクな革命精神が『何だケチケチとめんど臭えやこんなものヤツつけちまへ』と暴力を振つて、藝術家井東憲を壓倒したのである。その伊東憲の革命的暴力を象徵化したものが、この漂泊者である。伊東憲は何時でも「この暴力」で以て彼の創作の最後を打切つて終ふ。まだ十枚や十五枚は續くと思つてゐると、讀者のそんな考えなんかには吾關焉で、決然暴力で打のめして知らアん顏をして、梟のやうに凄い眼玉をキヨロつかせてゐる。この點が前田河と似た所がある。一は政治家となり、他は暴徒と化する。

然し、大本教の口眞似ではないが、革命家伊東憲よ、何ぼ何でも、これでは少し藝術にならぬぞよ。何うかその暴力を少し手加減してくれ！ 賴む、頼む。

門江女史と小林多喜二君とは勝手ながら、素通りさせて貰つて、秋田雨雀老の論文に喰ひつく。然し割當紙數（九尺二間の棟割長屋の三階組と御承知ありたし）が盡きて、長くなつたから、至極簡單にキリ上げるが、僕等としてはこの論文の結論から出發して先きが聞きたかつたのだ。雨雀老から敎へて貰ひたいことはその「主觀的な燃燒運動」を我國で何うしたら起し得るか、それを起す準備は？ それが我國にまた起きて來ないのは、何が缺けてゐるからだと云ふやうなことをハツキリと言つて欲しかつた。判つてゐることだけれど、一般の讀者に對しては、モ少し親切であつてもよかつた筈だと思ふ。

靑野季吉氏の『勞働階級と文藝運動』は賞めたいが仲間賞めになるから止める。唯、この頃のプロレタリア作家達は、よくよくこの論文を腹に入れて絕えず自己反省をするがいいのだ。この論文を讀むためのみにでも、金八十錢也を投じて、新興文學新年號を一冊買ふべきである。（註、尙この論文と照合して大正十一年六月號の「種蒔く人」揭載『勞働運動と文藝運動を讀むことを勸める）。（完）

名刀の斬味

（舊劇に對する感想）

舊劇に面白い脚本などは二十位しかない、あとの數百の脚本は、あつてもなくても痛痒を感じない、むしろない方が氣がせい〱する位の脚本である。

ところが、いゝ脚本といふものはめつたに舞臺にのることがない、たまに一つ位のつても、他の三つ四つは皆つまらないものばかりである。そのくせ舊劇はなか〱衰へないでお正月などは大入滿員である。それは何のためであるか。

一つは過去の幻想の中にしたつて現實生活を逃避し、自分を沒却する樂しみがあるからである。

一つは、現實生活から逃避することなく、現實生活の不滿を舊劇で充たす樂しみからである。

（まあ、大體この二つにわかつことが出來る。）

『舊劇などで、現實生活の不滿が充たされるものか』と、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すぐ異論が起りさうであるが、決してさうでない、舊劇に於ける名刀の切味こそ、なか／＼に捨てがたい、現代人の樂しみである。別言すれば、新派が衰へて舊劇がます／＼榮えるのは、一つは刀といふ非常に面白いものが舊劇にあるからである。

私は元來氣の小さい男で殺はつなことは、あまり好きでないだから自分の芝居に大砲を使つたりピストルを使つたりしたことは一度もない、ところが、中西君の小説「赭土に芽ぐもの」を脚色するにあたつて、自分は勇氣を鼓して一之瀬といふ鑛夫に爆彈をもたした、そして最後の幕切で爆彈が破裂して、當場人物も、背景を皆ふつとんで舞臺が完全なる赤色に彩られるやうに書いた、ところが、そこの場面が當局の忌諱にふれて完全に抹殺されてしまつたのである。

さういふわけで、今日の社會ではなか／＼爆彈なんか舞臺に持ち出すことが出來ないのである、ところが、刀とくると、全く自由である。人ふれゝば人を斬り、馬ふれゝば馬を斬る、金持であらうが、大臣であらうが、斬ることは全く自由自在である、而し、髷のない今日の人間が刀をふりまはしたのでは、刀の價値はまるでなくなつてしまふ、何うしても刀は舊劇でなければ調和しない、現代人にかうとう無形に近い舊劇が勢力あるのはその故である。

松之助は何のために人氣があるか、澤正の人氣、訥子の人氣、皆名刀のためである。勘彌は別として、若手の、左團次、猿之助、壽美藏などの人氣も側面から觀察すれば名刀のおかげである、福助、松蔦の人氣あるのは、彼等の清艶が名刀に調和し、その細い頸が、名刀で斬られるにふさはしいためである――。から觀察することは、決して牽强ふくわいではない。

どんなに退窟な舊劇を見てゐても、一旦、名刀が鞘を走つたなら、忽ち欝ぷんがさん然と散つてましふ（血を見なくては鞘におさまらない）そこに刀の妙味がある。斬る、斬る屍の山が築れる、そして我々は名刀の斬味に全く醉はされるのである。

屍の山は、現實ではたまらないものにちがひない、而し舊劇はこの屍の山を美化する、我々は少しもたまらないと思はない、凄らしいと感じない、それは恰かも現實に於ける〇〇〇〇〇と同樣である。

伊勢音頭や、籠釣瓶から刀をとつたら、一文もの價値がない、舊劇のクライマックスはぬけば玉散る氷の刄が、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

スボリ相手の頸をきつた時である。
名刀を持たして斬らせたなら、何と言つても舊劇では左團次である、左團次の猛闘振りを見てゐると、まるで本當に人間を斬つてゐるやうである、而かも斬り方が野暮でない、美しい、鮮かである、そして新らしい。
菊五郎や羽左衛門には決して長いものを持たしてはいけない、長いのになると、名刀も鈍刀になるうらみがある。そのかはり短かいものを持たせたら、すばらしくよく斬る兩優が默阿彌の悪黨に長じてゐる所以である、ことに菊五郎に短刀をあづけるといゝ、彼は長刀の左團次のごとく、あばれる、斬る、つく、彼は短刀で屍の山を築くことの出來る役者である、そして斬り方も鮮かで、美しくて、強い
クラシツクな斬り方では中車は第一人者である、ことに斬る瞬間より名刀が鞘をはなれた瞬間がいゝ、髪結新三の最後の場面、鮫ケ橋ぎはの小雨の中で、長刀をふりかざす彼の姿こそ、實に天下一品である。
松之助、訥子の猛勇振りはあづかつて、澤正の斬り方も鮮かである、今日澤正があれだけの人氣を得たのは彼の立ちまはりが拔群であるためである、而し彼の斬り方には何うもバタくさいところがあつて面白くない、何うも日本古來の名刀と調和しないところがあつていけない、彼の斬り方は軍刀流のところがある、要するに、今日の舊劇は刀のおかげであの命脈を保つてゐるのである、若しも警視廳あたりで刀を用ゆることを嚴禁したなら、舊劇は忽ちすたれてしまふに違ひない、恰も女義太夫のごとくに。
名刀は善であつて、悪である、いや、その何れでもない、たゞ美しい、私はさう信ずる。（洋文）

有島武郎氏の『酒狂』

「泉」一月號掲載

私は今批評を書かうとするのではない。自由な氣持で、『酒狂』からうけた感想を書かうとするのだ。自分は『酒狂』に對して批評を書くことは僭越であることを知る。何故なれば、批評しようといふ氣持のはたらく時は、既に最う概念が生れかけてゐる時だ。かうした作品に對するには概念が最も禁物である。作者の對座の眞劍さが明瞭にわれ〳〵の胸に直射するかうした作品は、既にその作者の眞劍さがその作品の効果を産んでゐるとさへ私には言へる。それは

理窟ではない。

此の『酒狂』がなぜ理窟なしに私の胸に深く喰ひ込んだかそれは作者が、主人公を寸毛の假借もないまでに解剖し批評し、凝視をきわめてゐるからである。

私たちが自身にあまへることなく、自己を底の底まで凝視めて解剖することほど困難なことはない。それは大部分の既成作家の凝視も解剖も自己にあまへることで持つて終始した。

そこにつねに妥協があり、ごまかしがあつた。それだから環境のなかの自已を完全に見出すことが出來なかつた自己にあまへて描き出す幻影の美に好い子になつて、生活を忘れた。いや、冷徹な眼で生活に觸れることが恐しかつたのだ。そしてそつと横道へそれた。

それは何といふ飽足らなさだつたか。私が生活が無かつたといふものはその故である。

『文化の末路』の結末に、『生活は死ぬまでは續く。死ぬまでそれを徹底するやうに私は續けて行つて見よう』かうはつきりと、有島氏は同じ泉誌上で言ひ切つてゐる。『死ぬまで徹底するやうに』此の言葉はなまやさしい心持で言ひる言葉なのか。此の言葉の裏には、偉狀な勇氣と、大膽と深く徹した信念とがらなされてゐる。しかも、『崩れゆきつゝある』と自己の生活を痛感して、その崩れかけてゐる生活のなかにあつて苦しみながら、自ら進んで此の言葉を口にする。時代の生み出す深刻な悲劇を、有島氏からまざまざと見せつけられる。

それは酒狂を讀むことに依つて、なほさらその感を深くする。

酒狂が無遠慮に入つて來た時『理不盡な潔癖は、醜く汚なく感じ、生活の根城をわざと平氣で踏みにじらうとする無禮者に出喰はしたやうに思つた』のである。が、Bの赤裸々な言葉によつて、『何んといふ僞瞞だと叫んだ時、私は頭の頂點をたゝかれたやうには思はなかつたか』とむちうたれ、反省がかへつて來てゐる。

『私は眞劍な氣持になつてゐた。あすこまで落ちるのがほんとうだ……僕等のやうに過去の生活をうんと脊負ひ込んだ人間には君のはいり込んだ道は解るよ』と言つておきながら、現在の氣持でなぐりつけてやらなかつたのが譯りだつた。自分の性格のなまぬるさをつくづく腑甲斐なくさへ思つてくる。が、餓鬼のやうに、人間の眞ぱだかな姿そのまゝで、湯漬をむさぼり喰ふのを見た時、不思議なほゝゑ

ましさに、『おほそれた侵入者』に對しての前の不快を立て通す譯にはゆかなくなつた。そして寢床にはいつてから『自分自身に對して憐みと嫌惡の情が一緒くたに澱む』のを見たのである。そして翌朝彼が歸つたあとで『妙に淋しい氣分』になつた……。

かうして見てくると、有島氏は自己の持つてゐるブルジヨア生活者の一面を植えつけられた性格としても見なければならなくなつてゐる。そして嫌厭を感じてゐる。が、さうした理不盡な潔癖を孕んでゐる性格をまでも、破壞しなければ、『まつぱだかな人間』になることは至難なのである。その至難な自己脱却をさへやらずにゐられない氣持となつてゐる。しかも、お人好しなのである。つまり善良なのである。善良には强さが道づれとなる。それだけまた良心的に徹底した生活にはいらうとする。さうした自己の生活を、『崩れつゝある生活』として體驗してゐる。であるから、『死ぬまで徹底するやう、……』といふ自己に對する誓ひの言葉は非常な勇氣であるがとがわかる。

有島氏に此の悲劇心理が何時までつゞくか。それは死ぬまでか。

私は酒狂を最初讀んだ時、Bのすがたよりも、主人公の方がより痛ましく思つた。おほそれた侵入者のために崩壞してゆく生活者の孤獨なすがたとてなによりも痛ましい感じがした。そしてそこに、二つの生活の對立をあきらかに見たが、二度び讀みかへすと、此度は反對に酒狂の姿がまざ〱と私に向つて來た。胸をゐぐるやうに迫つて來た。

Bをこれほどまで描きあげた作者を私はまた顧る。作者がBを完全に描きあげることが出來るといふことは、Bのなかに立派に作者自身を見出してゐることをも意味する。それはつまりBの生活に依つて、自分自身を明るく救つてゐるからである。

二つの生活の對立――それは作者にとつて一つのものだその點に、意味深い暗示がひそんでゐる。

此の『酒狂』が、とにかく私の心持を非常に敬虔にした反省を投げつける。恐らく、正直な心持で讀んだ人は何等かの打激を受けずにゐないだらう。まして、私が有島氏に敬愛を持つ如く、泉の讀者の大多數はそれ〲の敬愛を持つてゐるに違ひない。有島氏は死を賭して自己の生活に徹しようとする。それは痛ましいことだ。悲劇的だが、有島氏の行動も、言說も徹底的になればなるほど、大多數の讀者に何等かを投げつけずにおかない。その意味から、有島

氏の言動がます〳〵徹底的であり、悲劇的であることを希はずにゐられない。悲劇的であることを希ふのは殘酷ではあるけれども、私にとつては非常な愛の言葉だ。氏を尊敬する私にとつては深い愛の言葉だ。氏は此の意味を呑み込んでくれるであらう。それでこそ氏の藝術はます〳〵光りを放つであらう。『酒狂』一篇は、最近の日本文壇にとつて最も紀念すべき收獲の一つであることを私は廣言してはゞからない。（賢三）

階級闘爭と藝術運動

一

僕だちの戰ひは、ある新奇なイズムのための戰ひや、あるグロープの價値意識のための戰ひではない。斷じてさうではないのだ。僕だちの戰ひは、階級のための戰ひだ。無產階級解放のための戰ひだ。階級戰爭だ。

この一つのことが尤も大切だ。これを忘れたら、無產階級の藝術運動などは、意義をなさなくなる。

僕だちの戰ひは勝利の戰ひだ。それは歷史の進行が證明してゐる。だが、歷史はまた、僕だちの道が、荆棘の道であることを敎へてゐる。僕だちの荆棘の道が、長い里程であることを敎へてゐる。

僕だちの戰ひは、階級の戰ひだ。だから無產階級の全階級的解放まで、僕だちの戰ひは戰はれるのだ。僕だちの戰ひの中に、何らかの小さな完成を求めたり、何らかのまとまつた渾一を求めたりするのは、ブルジョアの筆法だ。無產階級のダイヤレクツクな道德ではない。

勞働運動も、ひと頃のやうに、活氣がないではないかとか、プロレタリヤ藝術運動も、この頃は、いさゝか草臥れたではないかとか言ふやうなことを、平氣で言つてゐるブルジョアを見受ける。かう言ふ連中は、勞働運動やプロレタリム藝術運動と、在來のイズム運動などとを、ごつちやにしてゐるのだ。それが階級解放の長き戰ひだと言ふことが分つてゐないのだ。

表面の運動が休んだやうに觀える時は、地下運動が醱酵してゐる時だ。支配階級が手足を伸してホツと一呼吸してゐる時は、被支配階級の戰鬪力が滿潮に達しつゝある時だ。舊き戰ひの段落、新らしい戰ひの準備、階級鬪爭は、一刻の休止もない。それは歷史の命令だ。それが、われわれを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

照らす「光り」なのだ。

無産階級の藝術運動は、階級の全的解放のための戰ひだ。階級の解放を見るまで、戰は或は表面に、或は地下に、一刻の休止もないのだ。藝術の名によつて、ブルジョアからこつそり背負はされた「藝術」の亡靈に祟たられて、階級の全的解放の戰ひだといふ一事を忘れる者があつたとしたら、それは既にブルジョアの陣營に投じられたものだ。裏切者だ。

二

プロレタリヤの藝術家も、忿怒や反抗や破壞だけでなしに、モツト勞働階級の人間性を描かなくては、藝術でないと鷲いたことには、プロレタリヤの藝術家と自稱する者がそんなことを言つて、思ひ上つてゐる。

[redacted]

それは勞働階級の人間性の力強い示現ではないか。生きて燃え上つた人間性ではないか。

[redacted]

[redacted]い。

その意味に於いて、今日、日本の無階産級の藝術は、階級闘爭線上の、忿怒、[redacted]の表現より外にないのだ。それが深いこと、それが強いこと、それが唯一の價値の標準だ。

「藝術」や「永遠」の美果を探し求める連中は、未來の博物館で仕事をせよ。強き人間性の燃燒の燒け棒つくびの中から、「藝術」や「永遠」を捜して來い。

その忿怒、[redacted]表現が、いかなる形を執つて來るかは、それこそ個人によつてさま〲に異る。それは問題ではない。僕だちは、その中に、階級の全的解放戰を觀ればよいのだ。階級運動の強き示現を觀ればよいのだ。全階級的なものを觀ればよいのだ。

いかなる事があつても、「藝術」といふ亡靈に惱まされてはならぬ。階級解放のための忿怒の念、[redacted]行進の歌、それであることが、すべてだ。僕だちの戰ひが階級の戰ひだといふこと、尤も強く支持す可き一事と云つたのは、これがためだ。

[redacted]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

[redacted]だ。それが彼によつて代表されたプロレタリヤのすべてなのだ。その中に「永遠の宗教」をつきはぎしたのは教會だ。その中に「美」や「詩」を見たのは、草臥れ切つたワイルドの徒だ。

三

プロレタリヤ批評家、藝術家は、藝術を宣傳の道具に使ふ。藝術の冒瀆者だ。そう云つて青筋を立てる。僕だちは何故、藝術を宣傳に例つていけないか、その論理がわからない。

「永遠」や「藝術」などの目つぶしを喰つてゐる連中は、自分だちは何かしら自由な、獨立な立場にあつて、尊貴なものゝために奉仕してゐると思ひ込んでゐる。しかし、さう思ひ込んでゐることそのことが、ブルジョア支配——一切の階級對峙の社會の敎化に囚はれてゐるのだと云ふことを知らない。階級對峙の現實を、美しいヴエールでつゝんで見せまいとする支配階級のカルトから生れたは成績優良の子だと云ふことを知らない。彼等は、それに氣がつかず、革命力の前に背骨を見せてゐる事において、無意識に、支配階級の宣傳をやつてゐるではないか。彼等の思想も藝術もまた宣傳に過ぎぬと云ふことは、宣傳を恐ろしい冒瀆のやうに嫌つてゐる彼等にとつて、何と云ふ皮肉だ。

彼等が無意識にやつてゐることを、無產階級の批評家や藝術家は、意識的にやつてゐるに過ぎぬのだ。無意識にやる宣傳は藝術で、意識的にやる宣傳は非藝術だと云ふ理論がどうして立つか、僕にはわからない。

[redacted]る。それは明らかに宣傳と云つてよい。僕だちは、それを意識的にやる。宣傳と云ふ一角から見て、僕だちとブルジョア批評家、藝術家と思ふところは、意識的と無意識的との違ひだけだ。

僕だちは宣傳であることを、寧ろ名譽とするのだ。だゞその宣傳が本統に無產階級の動的生命から生れて、廣く全階級に亙るものであつて欲しい、それが無產階級の階級的進行と步調を合せたものであつて欲しい、さう念すはかりだ。

四

僕だちの戰ひは、徹頭徹尾、階級的の戰ひだからだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

階級鬪爭のためなら、[redacted]藝術をすてよ、そんな事を信つて、大いに得意になつてゐるブルジョア批評家を見る。

階級鬪爭が、全線に進んで來たればこそ、ブルジョア、カルトの侵潤してゐる、ありとあらゆる社會層に於て、戰はねはならぬのだ。

[redacted]た。

それが政治でも、それが藝術でも、あるひはまたそれが宗教でも、いやしくもブルジョア支配の確立を保證する分野であれは、大衆の心の一齊がそこに釣られてゐる分野であれば、われわれはそこに出でゝ戰はねばならない。われわれはそこに、支配階級の詐術を暴落し、新興階級の歴史的使命の「光り」を、遍ねからしあねばならぬ。その全社會的な鬪爭をおいて、社會の片隅によせられる階級鬪爭を知らぬのだ。

五

僕だちのプロレタリヤの藝術運動は、一九二二年において、激しい戰ひの口火を切つた。僕たちの戰ひは、年を一つ加へて更に、熾烈とならなければならぬ。そして、階級鬪爭としてのその眞使命をいよいよ、鮮やかに發揚し、階級鬪爭としての實際的效果をあげなくてはならぬ。（季吉）

プロレタリア作家の自家撞著

今、吾々の文壇では、ブルジョア作家と云はれる作家の一團と、プロレタリア作家と云はれる作家の一團とが、互に相對立して、後者が前者に挑戰し、前者に比して非職業的な（職業者としては未完成な）後者が、職業的な前者の藝術の弱點に乘じて、前者に代つて文壇を我が手中に收めようとする形勢を示して居る。

プロレタリア作家に依つて起されたこの運動は、明かにブルジョア作家の藝術の職業化或は商品化の傾向に對する

反對運動として見る時、それは憐かに意味のあるものである。藝術の職業化或は商品化はそれ自身藝術の墮落であるからである。

が、それならば、この運動を起したプロレタリア作家がブルジョア作家に代つて、文壇へ打つて出た時、果してその藝術を職業化したり或は商品化したりはしないと云ふ事が斷言し得るであらうか？　單りプロレタリア作家に限らず、今のプロレタリアが何うして現代の資本主義經濟組織に依つて立つ社會に於て、職業者とならずに生活の途が立つと斷言し得るであらうか？　今の社會では無職業なプロレタリアは即ちゴロツキである。プロレタリア作家がゴロツキ作家を意味する者でない限り、ブルジョア作家同樣、必然的に職業者たらざるを得ないのである。

已に藝術を渡世とする職業者たる以上、プロレタリア作家の藝術も亦職業化し商品化せざるを得ない運命に逢着することは明かである。それは現代社會の資本主義經濟組織の下に支配される無資産者が繰り返さなければならない必然の運命である。

だから、先づ現代社會の資本主義經濟組織の改革に行かずして、ブルジョア文壇破壞と稱して文壇に職を得ようとするプロレタリア作家は自家撞着を免れない。

この時に當つて、藝術をブルジョアの娛樂の爲めに製作し、資本階級の營利の材料として提供する爲めの職業とせず、萬人をしてその創造及所有の機會を均等ならしむべき運動は唯一つしかない。それは我等藝術家が此際先づ小感情を棄てゝ、一齊に握手團結し協力して、この目的を貫徹し、この理想を實現すべき新しき生活の機關を――新しき社會への組織を造る事である。（光造）

本號には

一、無産婦人版

一、種蒔き少年版

の二つの小さな附錄を挾みました。私たちは今後もかうした企をつゞけるつもりです。どうぞこの種に翼を與へて下さい。

インターナショナル通報

私たちの兄弟「無産階級社」同人は今月から「無産階級インターナショナル通報」を發行して特にインターナショナル運動を仔細に報道します

世界欄

勞農ロシアの謝狀

ロシア飢饉の前後策を講ぜんとするモスコーの總會は萬國勞働者ロシア救濟會幹事長同志ミユンツエンベルグの報告後、ロシア諸團體は同國人民の救濟のためになせる努力に感謝の意を表することにした。

ロシアのプロレタリアは萬國勞働者ロシア救濟委員會が今日迄盡力せしこと、また今後とも飢饉の結果に對して努力しやうとすることに對して萬腔の敬意を表せんとするものである。

（一九二二年十月二十一日モスコーに於ける飢饉前後策に關しす中央委員會の議事の一節）

同志ミユンツエンベルグ並にロアヅックの説明後左の決議をすることに決した。

萬國勞働者ロシア救濟會がロシア飢饉並びにその後の救濟に努力せることに萬腔の感謝を表すること。

萬國勞働者ロシア救濟會をしてロシア政府並びに同國無産階級が世界の無產階級に深大の厚意を謝し且つ今後とも飢饉の結果に對策せしむることを期すること。

萬國勞働者ロシア救濟會がロシア兒童二萬人のための食糧を供給せることを保證せしむること。

萬國に於ける飢饉對策事業を統一せしめること。

世界のプロレタリアとロシアのプロレタリアを接近せしむる最も重要且つ有効なるものは萬國勞働者ロシア救濟會をして農具並びに機械を供給せること。

農業並びに工業の用役權を萬國勞働者ロシア救濟會に與へること

全露中央執行委員會長　カリニン

同中央執行委員長　スミドキッチ

ロシア救濟新計畫

萬國勞働者ロシア救濟委員會第三大會が昨年七月伯林で開かれ、その後數次の全委員會議で協議の結果十月始めて向ふ一年間のロシア救濟のプログラムが決定された。今までの純然たる飢饉救濟運動に代つて新しい三つの活動が始められることになつた。

（一）勞働者債券と經濟的援助

この債券については一昨年各頃から廣告してゐたが昨年冬始めて第一回の賣出しが出た。百万弗で五分利附である。償還期は一九三三年一月一日である。利子その他凡てロシアソビエット政府の完全な保障がついてゐる。債券所有者で利子を貰ふまいとする人は成るべく、（二）の『子供の家』の基金に充てて貰ふことになつてゐる。こうして集め得た金は萬國勞働者ロシア救濟委員會のインターナショナル中央委員會の手でロシア内で特殊な企業を營む資金にしたり、又ロシアに向けて諸種原料や必要な道具、機械を輸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

設してソビエット共和國に大生產組織建設を助けるであらう。既に五ケ處の尨大な土地の割讓を得てゐる。三ケ處はカザン州にある近代的な耕作法を行つてゐて將來飢饉に備へる有望なものになるだらう。加ふるにカザン州の大森林も割讓されたので、今春には百万の材木がヴオルガ河を下る事とを豫期されてゐる。製材機械も大部分到着してゐる。その他伯林の委員會の手にあるものにはモスコー州の近代的な製靴工場その他數多の小工場がある。最近鑛區割讓がまとまつたらしい。これら凡て伯林の委員會とソビエット政府の代表者の手によつて圓滿に行はれてゐる。今後ソビエツトロシア繁榮のための產業的に經濟的に確固たる基礎を完成させる一つの重大な要素になるだらう。

（二） 兒童の家

別項の如く種蒔き社はこの兒童救濟運動のために立つことになつた。敢へて種蒔き社許りでなく今後この運動は全國的になるだらう又それを祈つて止まない。既に前衛、無產階級（無產階級インターナショナル通報）も本月から活動することになつてゐる。この運動に關する用件については本社內ロシア兒童救濟掛宛に問合せる樣にされたい。

（三） 食糧品小包輸送事業

萬國勞働者ロシア救濟委員會は、如何なる私人、如何なるグループ、如何なる團體でも委托を受けて、ロシアの特定私人グループ、團體等に宛てて食糧品小包を送ることにした。委托費の如きも最小限で甘じ輸送の正確迅速を保障してゐる。各小包は均一で中味は下の通りである。（一キロは約二百七十匁）

麥粉、米粉又は玉蜀黍五キロ
砂糖一キロ
罐詰牛肉二キロ
茶約三十四匁
燻肉二キロ
コンデンスミルク二罐

右の小包價は約五圓である。小包は委員會經營のペテログラードの倉庫に置かれる。これらは特に關稅を免かれる。受取者の受取證は相當の時日の後發送者に送られることになつてゐる。

大體右の樣な計畫である。アムステルダムインターナショナルの如きは世帶許り徒に大きいが案外仕事ははかどつてゐない。意識的にサボつてゐる譯でもあるまいが矢張誠意が缺けてゐるのだらう。因にこの萬國勞働者ロシア救濟委員會に屬してゐるのは、和蘭瑞典、佛蘭西、伯耳義、英吉利、獨乙それから例の亞米利加の『ソビエットロシア友人會』等である。日本支部も一日も早く設けられなくてはなるまい。

三月號豫告

無產婦人號

三月は世界無產婦人運動いため、「婦人週間」のある月です。
次誌はその紀念に日本無產婦人の寄稿を以つて埋めます。
それと同時に本社は三月上旬東京、大阪、その他各地で紀念講演會を催し無產婦人の叫びを擧げるところとなつてゐます。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

衆人

戰

信田　星宵

都會は歩み
人々を追ふ。

獅子にまたがつた都會は
なめらかな代赭色の毛をもち
而し鋭い牙をかきならし
永遠に吠え永遠に進み行く。

その下で
人間の群は囚人の樣に
お互に越え得ない土屏を思ひ思ひに造り
そして見えぬ
けれども不朽の錠と鎖を
無意識に鑄てゐる。

人間よ放たれよ！
止まつて誤まれる文化の象徴なる都會へと
限りなく戰へ。

戮力

同人

無慈悲なる富豪なる親類や叔父が
貧乏な私の家で病んでゐる弟の爲に
一言の言葉しら送つてくれない、
同じ町に住んでゐても。
言つた所でだめだ
それは金の精だ、それは金の精だ。

世の中の悲しみが先づこゝから始まる
現世では
あゝ有勝ちな事である。

優しい世界よ生れよ！
皆が幸で生きる世界が
皆が人の子の不幸を悲しむ世界が
生れよ生れよ！
私達は一所になつて戰はふ戰ふ。

無題

同人

現世では凡そ心臟を持たないものは幸福である
地上に默して生き總べてを知り
宇宙に向つて無意識の耕作の畑を作るから。

木々を見よ
鑛物を見よ
水流を見よ
氣流を見よ
あるがまゝに調和した麗はしい風景の姿を見よ

生存の悲哀をまざまざと感じるものは
心臟をもてるものである。

年月の間に心臟をもてるものは失ふのか
彼らの魂は是れから心臟を得ようとするのか
心臟をもてるものは失はず彼等は得るのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰　同人

人間の肩に
恰も原始時代の森林を思はせる程
貧乏が繁つてゐるのを私はよく見かける。
眞晝の間は其の中で
あらゆる人々が必死となつて戰つてゐた
隣人もなく
生命もなく
あゝそれは恐しい戰である
而しそれらは沼の表面に映らずに
蒼い々々底に不思議にも映つてゐた。
人々の言葉は
愛や正義のきらびやかな衣しようをまとひ
生活の上にまことやかに踊つてゐる。

貴重の紙面　白馬生

皆さんの健闘を謝す不幸にして禁止になつて死産した前月號の中に無想庵先生のものが入つて居りましたが、
貴重な彈丸を無想庵先生如きに、わける事は如何とも思はれます。
裸になつた。なつたと言ふて着物を着けるうそつき者の事、何時僕等に彈丸をなげないとも言われません故一寸おせつかい申し上げしました。

資本主義を倒せ　無名生

今日は十二月三十一日だ、師走だ一年のどんづまりだ。
俺には鐚一文も金はない。
こつそりと下宿を潜り出た。
馬鹿野郎、何をこそこそ逃るのだ、
何にか恐いのか、借金位ふみ倒せ。
と理性が其の冷い眼で俺を睨む。
併しだ。金がないだから。どうも不安だ。
今年は殊に寒、マローズだ。おゝ寒い。
下宿は火がない。
借金して來よう。とぶらぶら出掛る。
手足が凍る。歳末の町は呑氣なブルヂョアの肥つた姿が、——自動車に乗つた壓して來る
其の狼の吼聲からして氣に喰はぬ。
まひこが通る、俺には無關係だ。
一杯のウイスキーが欲しい。コツプ一杯十五錢のでいゝから。
手袋が欲しい。俺は一枚の袷でふるへて街をこうもりの樣ほつき歩く。
借金する目的もない。
馬鹿な寒さだ、撤兵してから馬鹿に寒い。
大方一緒に西伯利の寒氣をしよつて來たのだらう。
くだらぬ出兵などするから。
ストパツエだアンニユイだゴーロドノだ。
棒の樣になつた足を引摺つて街をとぼとぼ。
二時も過ぎた、三時も昔しだ、
四時だらう。
マローズの神が俺をしつかりととりこにした。
神經も血液も氷つて了ふ樣だ。

[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

入營

幸田生

此の秋親爺は死に
此ん度俺が入營すると
後には五人の弟妹と
乳飲兒を抱えた母と
老衰した祖母とが殘る
重なる不幸……と世間の人は
同情の涙を寄せて呉れる
祖母や母は不安と焦燥と愁嘆
涙に暮れる日が多い
それでも俺は中心平氣だ
入營……それは此の俺に取つて
此上も無い憧憬と滿足……
而しそれも
[redacted]

祝聾人欄

小牧生

久振りで聾人欄の兄弟に會つた嬉びを察してくれ。淳三のいふ通り聾人欄は全日本青年プロレタリアの聲だ。種蒔きの生命だ。これは後で聞いたことだが、十一月ロシア革命號の禁止はゴルキイも祟られたが、あの火の出るやうな聾人欄が主なる原因だつたそうだ。何んといふ嬉びだらう。おい兄弟らんとやつてくれ。こうなると何處までも過去一年の種蒔詩集を出版したいものだ。淳三の仕事を助けてくれ皆の力で。

「婦人雜誌撲殺の」M君、僕らはきつと三月滿足させるものを出して見せる。

それから「少年敎化」のため小學校生活の記事をもつと豐富にしたい。聾人を新らしく飾るものだ。

初夢の猪

省二生

天下のタネマキストよ、私の小さな話を聞いて下さい。

私は現在ある大都會に近い町の貧弱なニユースライターとして働いてゐるものです、そして此の町唯一のタネマキストである事を自認して密かに誇りとして『種蒔く人』をリーダーとしてゐるものです。

昨十二月末の事です、此の町のニユースは日刊が三つありますが皆年末二十五六日頃から休刊して新年號の原稿にかゝります、で私の方もその通りで二十六日限休刊となり、編輯長兼主筆の○は私等に種々と原稿を書く事を禁じました。その○と言ふ人は國家主義、資本主義者たる事を自稱する人で日常の遣り口にも非常にびく〳〵して、其の筋だとかエライ人達に媚びる様な態度をとるので私とは勿論他の二人の同僚とも衝突する事が度々でした。

正月の原稿にと私に、初夢を書けと命じましたので私は次の様な初夢を書きました、

× × × ×

初夢の猪

夢幻の曲が響きわたる、やがて洋服姿の猪が出て來る、と一方からひよろ〳〵にたつた人間が現れる、そして人間が猪の姿を見て逃げ出そうとする、猪は之を止めて

「何もそう恐がる事はありませんよ、昔の様に貴方を捕つて食はふとはしませんよ」之を聞いて人間は未だビク〳〵震へ乍らう「まく言ひますね、そんな事を言つて油斷をさしておいて出しぬけにとつて食はふ とするん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でせう」

猪「君は僕を嫌ふのですか、どうも人間は先天的に物事を信じないで困る、君達自身のしてゐる事が信じられないからだらうか、だが先づ安心したまへ、百年前のなにとやらの時代とは違ひ今は宇宙の萬物すべてが同權なんだから捕つて食つてくれと言つても僕は君人間の威嚴を尊重して自分勝手に食ひはしない、總べての生物として此の宇宙に存在するものに相談した上でなければ食えないのだ、君はそんな事を知らないのか」

人「えゝ、私は永らくくらい囚獄の部屋に榮譽と金塊をしつとか抱いてゐましたので、本當の世の中がどんな風の吹き廻しで居るのか少しも知りませんでした、處が過般無用長物廢止が厳行されてその時、とうとう私もその古巣から追ひ出されてしまつたのですが、何分時代の風に永らく當らなかつたものですからお見かけ通りこんなにみすぼらしい有様になりました私も此處で貴方にお逢ひしたのを幸に一つ生きてゐる甲斐のある様に矯め直して頂き度う存じますが」

猪「それぢや君は珍客だ、俺達の家へ來たまへ、其處には人間は勿論あらゆる事象あらゆる動物が寄つてゐるから一つ紹介しよう、そして君の囚獄生活の昔話でも話したら、皆が珍がつて喜ぶ事であらう」

と言つて猪君はひよろ〳〵の人間を伴つて、その自由の住家へ消えてしまふ。

夢幻の曲がかすかに響く。

× × ×

急がされて書いたものだから變なものだつたが兎に角之をその○の手許迄出したのです、それから程經て印刷されたのです、それは晦日の日です（正月を休む爲に正月三日迄のを年内に刷つておくのです）

所が正月二日の朝でした、何心なく社へ寄つて見ると○もて來ゐて、いきなり私に「初夢の猪」はどうも不穏でいけない、主義者の理想だあの時は忙しかつたので原稿を十分見なかつたのだが、先夜ある人から（それは三百をやつてゐるブルゴロの事でした）注意されたので狼狽てて十里も南の町にゐる發行名義人の許へ相談に行きその結果未だ新聞は配達してゐないのだから此の段丈抹殺する事にすると言ふのです、私は馬鹿らしくつて抗議する氣にもなりません、此の○の臆病さは憐むべきもにだと思ひました、私の同僚は之に反對しました、配達の方でも反對しかけました、その反對は一枚一枚抹殺するのが面倒だつたからです。

しかし○は飽く迄も其の筋を恐怖し給仕に金を若干やつて迄ルーラでその段丈ぬりつぶそうとしました。

之は○の思ふ通りには行きませんでした、何故ならその給仕も面倒がつて命じたまゝには抹殺せず、納本の部丈ぬりつぶしたに過ぎません。

それから私は○の生ぬるさが癪になつてそのブル肥えに太つた横つ面を張りとばしてやりたくなりました、がその瞬間その○が未だ何も知らない子供の様に見えたので逆上しかけた氣持も消えてしまいました。

私の話はこれ丈です。そして此の小さな話を諸君が讀んで下さる時分には私は此の憶病者の許にはゐない事でせふ。

噴飯事

露夫生

「君今種蒔く人を注文して居りやせんか」友達に局員がこつそりして意味有り氣に俺にさゝやいた。

「否十一月號注文しようと思ふけど金が無くて得せんで居るよ、それがどうかしたんかい」「アノネあの本が來たら處分せよ。」つて局報で來てるよ」段々根を掘つて質して見るとこうだ、「二三日前來たのだと云つて「トウケウフカハツコウタネマクヒト 一一七ニヨリミアタリシダイショブンセヨ」大體こんな意味の電報を見せた。この「一一七」と云ふのは社會の秩序安寧を亂すと云ことである

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことは無論だ。

俺は一人腹の中でチャンチャラ可笑しくて仕方が無かつた。

吹雪の中より

岩田 要吉

新なる年は生れました、しかし舊態依然として世界の現狀は資本主義經濟組織のそれであります。あらゆる社會主義者たちの、健實な努力も、プロレタリアートの覺醒も、詩人の空想の如くにも思はれます。しかし私共は、夢を喰ふて生きる人ではありません。昨年の十一月頃、上野虎雄さんが、加藤一夫、白鳥省吾、福田正夫さん達と青森縣――青森市や弘前市――へ來て講演をなさつたさうです。私は何ものをもおいて弘前へ出かけようとしました、しかし財がゆるしません。せん方なく新聞紙の活字ばかりを注意してゐましたが、詳しいことは一切解りませんでした。十一月號の御誌がキンシになつたさうですね、内務省の檢閲も大部寛大になつたさうですが、どうしたのでせう。私も當地に、三四人の同志を得て、「種蒔く人」をよませてゐます。組織はいたつて幼稚なもので、單に社會問題を研究してゆくのが當面の目的なのです。しかし充分の實力と覺悟が完成された曉には根本的の破壞を實行するのです。からじてコツコツと種を蒔いてゐるのです。いつかは中央の本部？と相待つて、日本が、根本からくつがえされることを信じてゐます。

私にとつて最も困難に感じられるのは村民の固定的な觀念を如何にしてひるがへさせようかといふことです。既往のあらゆる――私有財産制度、階級問題、小作問題――ことに、水も洩れないやうな、固定觀念、を强く所有してゐるのですもの……しかし最も入り易い問題は戀愛、結婚、並に小作問題だと思ひます。文化のレベルまでは達するに、かなりの時間が要るのです。こんな風なんですもの、私共のやうな無實力さでは、單に同志を募りそして種を蒔いてからでなくては、と思はれるのです。失禮。（B）

アインスタイン博士からの答

前號に發表した通りわれわれ有志の發した問に對して、アルバート・アインスタイン博士から答がありました。「改造」の二月號はそれを發表するそうです。それの他に僕らに直接來たものがありますが、締切後でしたために、次號で紹介することにしました。

種蒔き詩集に就て

過去一年に於て、本誌でもつと活躍したのは聾人欄ではなかつただらうか。で出來ることとか出來ないこととか一寸見當はつかないけれどもその「聾人欄」の詩ばかり集めて「種蒔き詩集」を出版したいと思つてゐる。それは現在の日本詩壇へなげる爆彈のつもりである。否、單に詩壇ばかりでない。藝術至上主義者の手淫文壇への、大きい反抗だと思つてゐる。で前號にも豫告した通り一册五十錢見當で、今から豫約をしたいといふが、希望者が約二百人もあれば直ちに實行する。まだ十人位しか申込がないが、續々と申込んで欲しい。豫約が思はしくないやうなら、きつぱりやめるつもりである。もとより金もお返しする。でこのことに就ての通信其他に就ては、便宜上から本社内僕宛にして貰ひたい。以上、臨時責任者松本淳三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四六二倍十六頁　二月一日創刊　毎月一回發行

無産階級
インタナショナル通報

◇定價十二錢　◇半年稅共七十錢
◇郵稅一錢　◇一年同一圓四十錢

□執行委員會の報告（ジノビエフ）
□ロシア革命の五年（レニン、トロツキー等）
□資本の攻勢（ラデツク）
□勞働組合に於ける任務（ロゾフスキ）
□ファシスチの正體（ボルヂガ）黑人問題

共産インタナショナル
第四回世界大會特別號

□インタナショナル綱領の問題（ブハリン）
□共産青年の運動（ジユラー等）
□東方及植民地問題（ロイ及片山等）
□農民の要求（ワルガ）協同組合運動
□ルール占領に對する抗議（其他）

◇特に多數とりまとめ御注文を乞ふ
◇同一號十部一圓十錢　◇二十部二圓

東京代々幡町
幡ケ谷四〇番　無産階級社　振替口座 東京六〇五〇一

既成詩壇へ投ずる爆彈！

鎖

手淫詩人へ對する嘲笑！

鎖創刊號目次

（一部定價二十錢税五厘）

宣言

吾の如く生きよ……松本淳三

貧しい私の初戀……坂本斐沙子

月夜の村……重廣虎雄

近代希臘詩抄……藤村義助

朝の地震からの墜落……村松正俊

痩せた脚……和田信義

蟻……二木正夫

涙……趙明淵

深川公園の朝……桑田克己

胸はさける……國木田文子

淳三獨語——編輯後記……

表紙……柳瀬正夢

東京市外　鎖人社　中澁谷六八九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新聞學文章講義

全十ケ月卒業

別科 最新式速記術

葉書で御申込あれば無代にて直ちに見本をお送りします

□戰端は正に開かれた、貧しき者の唯一の武器は筆の力である。吾等は先づ筆の力に依つて富の權力に向けねばならない。

□本講義錄は世間にザラにある幼稚な大學や中學の講義錄と全く選を異にしてゐる、斯道の大家に依り、專門的に新聞の學術及實際編輯を懇篤に詳說したものである。本會を卒業せる數百の士は、目下各新聞社に就職して、斯界のために大活動をつゞけてゐる。

東京市下谷區 谷中眞島町一

大日本新聞學會

振替東京三一六〇三 電話下谷二五七〇

中村吉藏著

第三版

現代劇選集

血の泌む現實の生を凝視して、根強い藝術的欲求によつて生れた中村氏の現代劇が、如何に鋭利に錯綜せる社會生活を解剖し、如何に徹底的に人間性の矛盾を揚抉せるかを見よ 象牙の塔の反逆者、藝術王宮の異端者たる著者の深刻なる劇作に接して得る感激は、眞劍そのものである。本書に收めた八篇の一幕物は何れも著者會心の作にして、曩に藝術座に於て松井須磨子によつて、また市村座に於て菊五郎、宗之助一座によつて上演されて滿都の好評を集め、劇壇に新生命を與へたものゝみである

〔本書內容〕

剃刀　帽子ピン
老後　飯
肉店　地震
爆發　職業紹介所

菊半截布裝美本
水島爾保布裝幀

定價二圓　送料十二錢

東京今川小路 振替東京三三六一八
大阪三休橋南 振替大阪二七一五五

大鐙閣

前號目次

赭土に芽ぐむもの…金子洋文
ソレルの廻想…植田好太郎
科學と無產階級文化…武藤直治
ある日の夢…水守龜之助
鼠…………………前田河廣一郎
無產階級の教育的獨立　N　M
自由人の生活意識…津田光造
決鬪を讀む…今野賢三
淺草と百姓の生活…金子洋文
前田河氏の『三等船客』…松本淳三
小林德三郞氏個展評…松本弘二
無產少年少女雜誌の爲に…小牧近江
現代の子供雜誌を見て…三枝
一房の葡萄…玉井
ジュン　サ…チンパチロー
□世界欄——聳人欄…………
□社會主義講座…………
□表紙及びカット…柳瀨正夢

編輯後記

一九二三年を迎えて、僕達は總ゆる意味に於て新鋭の意氣を示して來た。僕達は、如何なる迫害にも、如何なる危難にも屈せざる意氣を以て、益々元氣よく諸君の前に現れるであらう。

我が社は、今度青野季吉君を同人の一人として、新たに戰鬪の先陣に起たしめることゝした。彼は、彼の大きな體軀に正比例するところの、勇敢な戰鬪ぶりを見せてくれるであらう。そのとほりに、彼の意氣込みも亦素破らしきものである。

然るに、僕達が最も殘念であることは、昨秋來の平林初之輔の病氣であるけれども、病床にありながら彼は、全快の上一日も早く先陣に起つべき時機の來たらんことを、もどかしがつてゐる。

尙、三月は無產婦人號として、女性の爲めに大いに氣を焰くことにする。

種蒔く人　第三年第四卷第十六號　（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）　大正十二年一月二十八日印刷納本　大正十二年二月一日發行

【本號定價三十錢】

定價	廣告	宛先	締切
一部三拾錢◇半年前金一圓八拾錢◇一年前金三圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢	廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ	寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛	毎月五日

大正十二年一月廿八日印刷納本
大正十二年二月一日發行

東京府下千駄ヶ谷穩田百一番地
發行人編輯人
印刷人　今野賢三

東京市神田區今川小路一丁目一番地
印刷所　同工社

東京府下千駄ヶ谷穩田百一番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館　至誠堂　東海堂

種蒔く人 第三年第四卷第十六號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）大正十二年一月二十八日印刷納本 大正十二年二月一日發行

本號定價三十錢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA